

令和7年度 人吉市まちづくり 年次報告書

人吉市まちづくりデザイン会議

令和8年9月1日発行



人吉市のまちづくりの一年とこれから

未来の姿を描き、その実現可能性を確かめてきた一年。
なぜ、人吉市は「使いながら考える」まちづくりを選んだのか。
人吉市まちづくりデザイン会議・星野座長を聞き手に、
松岡市長とともに令和7年度のまちづくりを振り返ります。

—未来を決める前に、まず試してみる—

整備前の判断材料となる社会実験

星野 人吉市の復興は、令和2年の豪雨災害のあと、市民のみなさんと復興まちづくり計画^{*1}をつくり、グランドデザイン^{*2}を描き、それをデザイン会議で具体的なアクションプラン^{*3}へ落とし込んできましたね。そこで描いた未来図は本当に実現できるのか、その可能性を探る一年だったと思います。

市長 そうですね。災害直後は「まちはどうなるんだ」「早く方向性を見せてほしい」という声が多くありました。だからまず、人吉の未来の絵を描いたんです。そこからが始まり。絵には描いたが本当にできるのか、ちゃんと使われる場になるのか、誰がどう運営するのか。やってみな

ければ分からないようなことを試すために、社会実験を始めました。私は書道をするのですが、練習もしないでいきなり清書することはありません。小さく書いてみたり、大きく書いてみたり。書きながら直して、一番良い形を探しますよね。まちづくりでも、一度で完全につくるのではなく、試して、改善して、良い形を探していきたい。社会実験は、そのための時間だったと思っています。

まち全体をつなぐデザイン監修

星野 人吉のまちづくりでは「デザイン監修」が、もうひとつの要になっています。社会実験が「試す」であれば、デザイン監修は「つなぐ」と言えるもの。国、県、市がそれぞれ進める事業、そして民



人吉市長

松岡 隼人

熊本大学教授
人吉市まちづくりデザイン会議 座長

星野 裕司

間の取組、それらが別々に進んでしまうと、人吉全体としての魅力や統一感は生まれにくい。それぞれの場所が持つ歴史や役割を活かしながら「人吉らしさ」という一本の軸で全体をつないでいく。それがデザイン監修の役割だと思っています。

市長 そもそも今回のまちづくりは、ひとつの公園や道路だけを整備する話ではありません。まち全体をどうつないでいくかという話です。エリアごとに魅力も役割も違います。やはりそこでは専門家の方々が知恵を集めてこそ実現する。横串を通して、人吉らしさに統一感をつくっていくという大事な役割を専門家の方々にお願いしています。

成果は、市民のみなさんとの対話が始まったこと

星野 一般的な公共事業は、計画が決まると、そのまま工事が進みます。完成した時に初めて市民が使う。でもこのまちづくりは違う。もっと前の段階から、市民が関わる形ですね。

市長 はい、その上で私は、この一年で一番良かったことは、反応があったことだと思っています。「それはいい」「それは違

う」という声。厳しい声もたくさんいただきました。正直、悲壮な気持ちになりかけることありますが、私はそれでいいと思っています。一番怖いのは、完成してから「誰も使わない」「こんなの望んでいなかった」となってしまうことです。形になる前だから議論できる。社会実験で試したからこそ、市民のみなさんが本音話をしてくださるようになった。私は、それがこの一年で一番大きな成果だったと思っています。社会実験で得られたデータも、市民のみなさんの声も、どちらも大きな成果です。

星野 公共空間の整備は、誰かひとりのためにつくるものではありませんから、本当の利用者がどんな使い方を望んでいるのかも分かりづらい。だから、社会実験の成果は、「うまくいったこと」だけではなく、利用するのはどんな人たちのか、何を望んでいるのか、そして課題が何なのかが見えてきたこと自体なんだと思います。

市長 そうですね。去年は「やってみる一年」でした。今年は「選ぶ一年」です。全部を実現することはできません。財源にも限りはあります。そこで一番大切にしたいのは、住民が納得できる税金の使い方ですので、現実的な判断へ進んで

いきます。優先順位をもって形にしていって段階に入ってきたと思います。

400年先の人吉をつくる一歩

市長 人吉の町割りには、およそ400年前につくられました。今回の復興は、その町に手を入れる大きな転換点です。だから、1年や2年で終わる話ではありません。50年先、100年先、400年先まで続くまちを考えています。急がなければいけないこともあり、時間をかけるべきこともあります。その両方を、今やっています。社会実験では、球磨川に人が集い、空き地だった場所に人が滞在し、公園で子どもたちが遊ぶ風景が生まれました。その景色を見て「ああ、人吉っていいまちだな」と改めて思いました。ジョギングをしていると、市民の皆さんからまちづくりについて直接いろんな声をいただきます。「ここは良かった」「あれは違う」と。その一つひとつが大事なんです。私も、まちのみなさんも、人吉のまちが好きだから、こうやってまちのことを考え続けているし、「人吉らしいまち」って、最初から答えがあるわけじゃない。みなさんの声を聞きながら、少しずつ形になっていくものなんだと思います。

星野 「人吉らしさ」は、行政が決める

ものでも、専門家が決めるものでもなく、そうやって使いながら、人が関わりながら、生まれてくるものですね。

市長 住民のみなさんに、「このまちは、自分たちでつくったまちだ」そう思っていたきたい。それが、人吉らしいまちづくりだと思っています。結果として「なんか人吉らしい、いいまちになったよね」と言っていたきたい。そこに向かう第一歩が、この一年だったと思っています。

- ※1 **人吉市復興まちづくり計画**
(令和3年10月策定)
令和2年7月豪雨からの復興に向けた基本方針を示す計画
- ※2 **人吉市まちなかグランドデザイン**
(令和6年3月策定)
中心市街地の将来像や空間づくりの方向性を示す計画
- ※3 **人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン**
(令和7年3月策定)
グランドデザインを具体化するための取組や事業をまとめた計画

はじめに

人吉市では、「人吉市まちなかブランドデザイン」の実現に向け、アクションプランに基づき、令和7年度にさまざまな社会実験や取組を実施しました。

これまでの公共事業は、施設や空間を整備してから使い方を考えることが一般的でした。しかし、人吉市では、実際に使いながら課題や可能性を確かめ、その結果を整備や運営に反映していくことを重視しています。

令和7年度は、中川原公園や大橋、球磨川、青井エリアなどを舞台に、市民や民間事業者、専門家、行政が協力しながら、社会実験、調査、デザイン監修など、さまざまな取組を進めました。

本報告書は、その1年間の取組内容と、そこから見えてきた成果や課題、今後の方向性をまとめたものです。

まちなかの未来像を市民のみなさまと共有し、これからの人吉のまちづくりをともに考えるための資料として、ご覧いただければ幸いです。

目次

巻頭

- 01p | 巻頭対談
松岡市長 × デザイン会議 星野座長
- 03p | はじめに・目次
- 04p | 人吉市のまちづくりのプロセス
- 05p | 人吉市のまちづくりの体制
- 06p | みなさんと一緒に取り組みました

エリアとテーマで見る令和7年度のまちづくり

- 10p | 川と共存する水辺の日常をつくる／中川原・大橋
- 12p | 球磨川にふれる場をつくる／球磨川テラス・球磨川アクティビティ・球磨川流域循環
- 13p | 歴史と景観を楽しむ場をつくる／人吉城跡・城見庭園
- 14p | 歴史・信仰・川をつなぐ／青井阿蘇神社周辺
- 15p | 駅前の魅力とまちをめぐる機能を高める／人吉駅前・交通・モビリティ
- 16p | 緑と水の回遊でまちなかをつなぐ／（仮称）紺屋町公園・山田川・うぐいす温泉跡地
- 17p | まちなかに過ごす場・訪れる場をつくる
／まちなかサードプレイス・ひとはこ図書館・妖漫画館
- 18p | まちづくりを支える仕組みと基盤をつくる／情報発信・公民連携

令和7年度デザイン監修・社会実験の記録

- 20p | 中川原公園
- 36p | 大橋
- 40p | 球磨川テラス
- 44p | 球磨川アクティビティ・流域循環
- 48p | 人吉城跡周辺
- 51p | 城見庭園
- 53p | 青井阿蘇神社周辺
- 60p | まちなかサードプレイス
- 62p | 鍛冶屋町通り
- 64p | 区画整理（紺屋町）・山田川
- 66p | エリア共通
- 69p | 交通・モビリティ・駐車場

人吉市のまちづくりのプロセス

未来の姿を描き、アイデアを重ね、
試しながら、かたちにしていく。

人吉らしいまちを
育てていく

実装・運営で**かたち**に
検証をもとに、改善し
設計・運営・常設化へつなげる



これらの学びを
次の取組へ活かしていきます

- ① ハード設計やルール設計へ反映
- ② 民間自主事業を次の展開へ
- ③ 公民連携事業の実現へ

令和7年度の 主な取組

社会実験で試す

市民・事業者が参画する
つくる前に
使って確かめる



デザイン監修でつなぐ

整備や設えを
具体化する



社会実験

検証結果から見えてきた
ことを分析して次の方向
性を見出します

デザイン監修

エリアの歴史や個性をつな
ぎ、人吉らしい具体的なま
ちのデザインを検討します

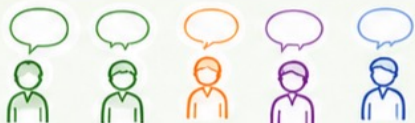
アクションプランにまとめる
具体的取組や進め方を整理する



集まったアイデアを整理し、
具体的な行動計画にします

アイデアを集める

市民・事業者・専門家・
行政のアイデアを重ねる



多様な立場からのアイデアや
知見を集め、重ね合わせて
検討します

未来像を描く

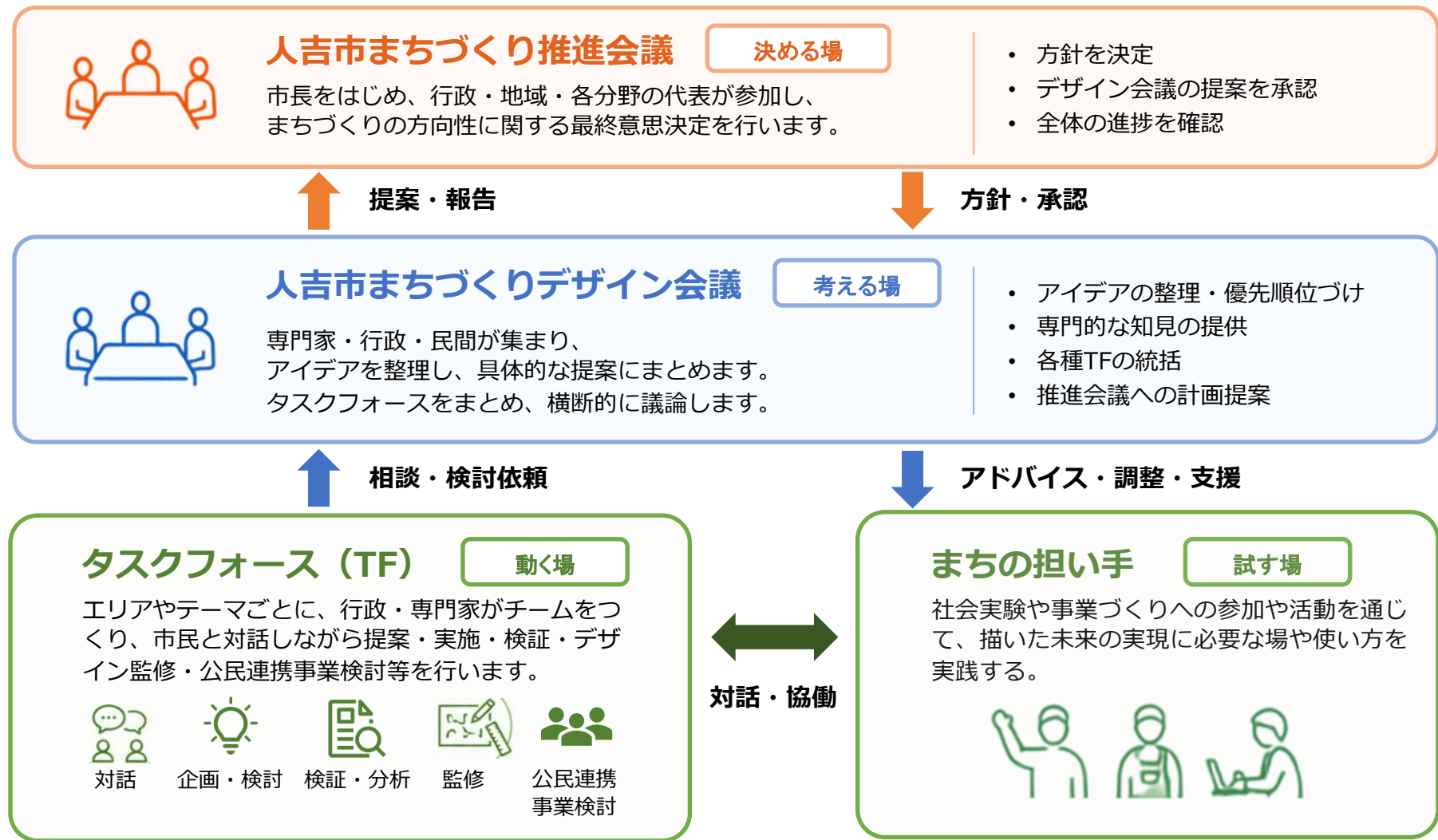
目指すまちの姿を
共有する



人吉の魅力や課題を見つめ、
目指す未来のまちの姿を
描きます

人吉市のまちづくりの体制

公（人吉市）と民（市民・事業者）と専門家が一体となって、まちの未来をつくります。



みなさんと一緒に取り組みました

1. 取組の広がり

社会実験の企画



59
企画

多くの人と一緒に考え、
さまざまなアイデアを
形にすることができました。



2. 社会実験実行委員会



- ① 第1回 6月23日（社会実験前）→37名参加
- ② 第2回 8月4日（社会実験前）→16名参加
- ③ 第3回 9月24日（コア期間直前）→14名参加
- ④ 第4回 11月25日（実験終了）→15名参加
- ⑤ 第5回 2月24日（結果共有）→10名参加

社会実験の全体像、個別の企画について共有。
各企画間で連携できることや課題を議論。

コア期間に向けて、担い手と行政の連携を強化。

社会実験の結果を共有・振り返り、
次年度の方向性や将来構想案について議論。

参加した
担い手



延べ92名

3. 調査の実施

各種調査の実施

■プレイス調査

- ① 中川原公園
 - ② 大橋・胸川・
球磨川右岸・左岸
 - ③ 青井阿蘇神社
 - ④ 城見庭園・HASSENBA
 - ⑤ 城跡 ⑥ 駅前
- エリアごとに生まれた
滞留行動を把握

延べ
27回
実施



■通行量調査

- 中川原公園入口
→ 入園者カウント
- 川上・川下通路
(青井・大橋北・老神社北・
城見庭園・胸川・城跡)
→ 通行量カウント

延べ
33回
実施

■来場者アンケート

満足度やニーズ、
課題等を把握

回答数
1,793件



■出店・関係者 アンケート

感想や売上、
課題等を把握

延べ
99件
実施

■主催者ヒアリング

社会実験の振り返りや
今後の方向性を把握

36名
実施



■地域住民等 アンケート

青井・城見庭園
について、感想や
常設化意向、課題等を把握

回答者数
112件



まちの住民や事業者からのフィードバック

■野点会

社会実験やまちづくりの経緯、
今後の方向性について意見を聞く

■ヒトヨシクマラボ

人吉・球磨地域にて各分野で
活躍する女性に意見を聞く



参加者
12名



参加者
17名

エリアとテーマで見る 令和7年度のまちづくり

試して、つないで、育んで、人吉らしいまちを形にする

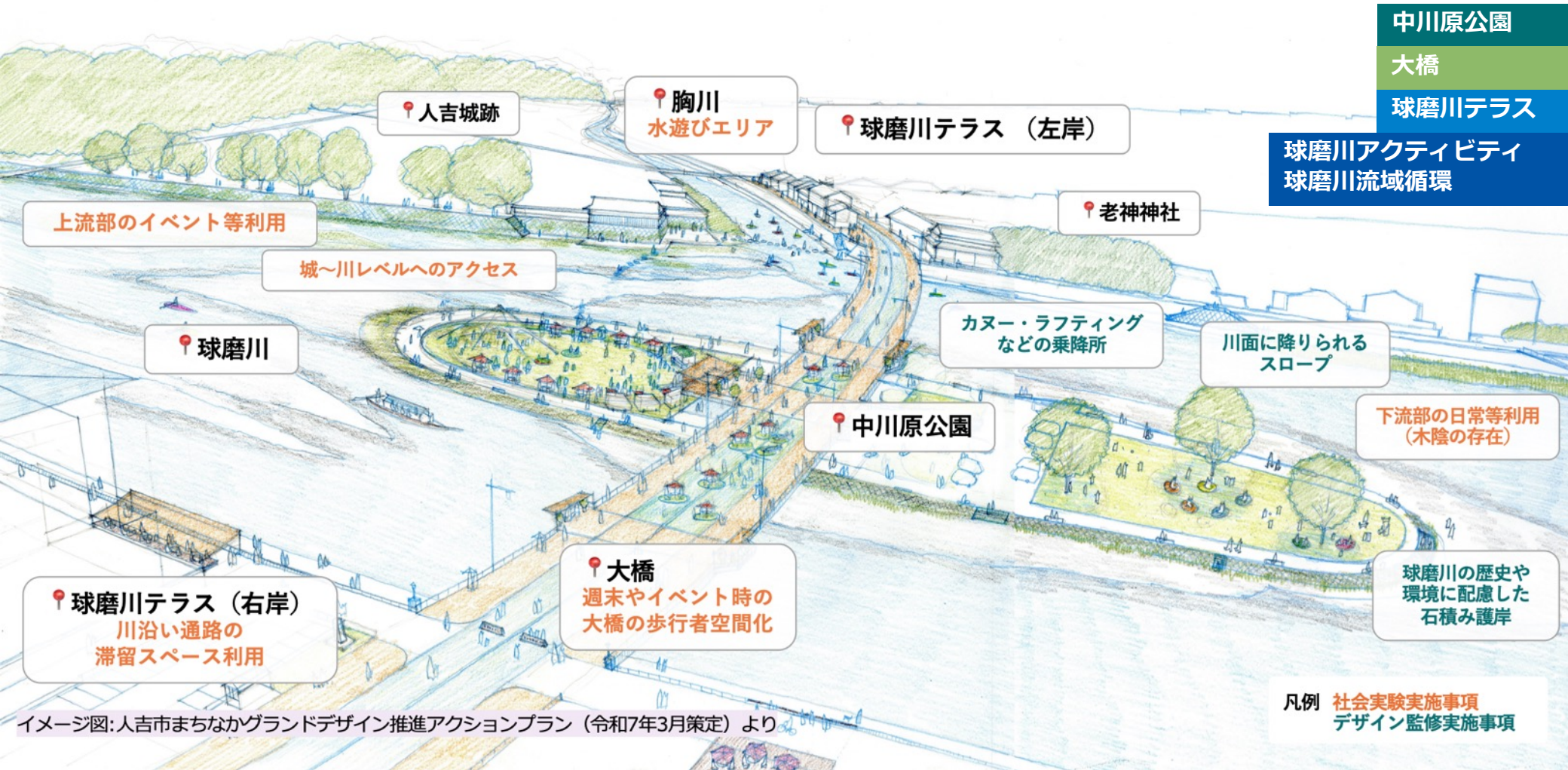
球磨川を中心に、歴史・文化、暮らしの場が広がる人吉のまち。

各エリアの魅力や役割を活かし、水辺や緑あるまちなか、

憩いの場に人が集い、兩岸を行き交う。

住み続けたい、訪れたいと思える将来のまちの姿を描いて進めた令和7年度を取組を、
エリアとテーマのつながりから紹介します。





中川原公園

駐車場利用
増水時対応・タイムライン
滞留空間設置
定点カメラの設置
あかりの設置
環境整備のための活用プログラム

大橋 おおはしひろば

球磨川テラス

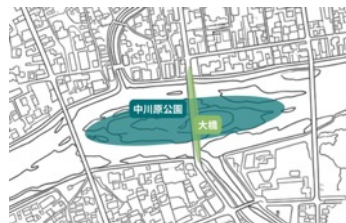
球磨川テラス 左岸（御麺・りんどう前）
球磨川テラス 右岸（あゆの里前）
球磨川テラス 右岸（鍋屋旅館前）

球磨川アクティビティ・流域循環

みんなで学ぼう！わくわく川遊び！
MIZBERING人吉会議

川と共存する水辺の日常をつくる

中川原公園とその上を渡る大橋を舞台に、日常の利用と憩いのあり方を検証しました。増水リスクと向き合いながら、安全に過ごせる水辺空間を探り、対岸から見られる景観としての価値も検証しました。



大橋



● 歩く・過ごす橋を考える

大橋を一時的に歩行者天国化し、滞留空間等の環境を整備したうえで、公募した20企画を実施。大橋からの人吉を象徴する風景の価値や時間の過ごし方、交通の影響などを検証しました。



→ 検証の記録
P.37 | おおはしひろば

● 気軽に立ち寄れる公園へ

15台の駐車場を設け、区画の明示や運用ルールの試行を通じて、日常時・イベント時での必要な駐車台数や不適切利用の抑制、安全な運用方法を検証しました。

→ 検証の記録
P.21 | 駐車場利用

● 川と共存する管理方法を探る

増水時を想定した撤収手順やタイムラインを試し、安全な管理・運営方法を検証しました。

→ 検証の記録
P.22 | 増水時対応・タイムライン

● 遠隔・リアルタイムな把握で安全を支える

定点カメラを活用し、公園の状況を遠隔で確認する仕組みの有効性を検証しました。

→ 検証の記録
P.25 | 定点カメラの設置

中川原公園



● ひと休みできる場所を

テントやベンチを仮設し、人が集まる場所や過ごし方から、必要な配置物や量などを確かめました。



→ 検証の記録
P.23 | 滞留空間設置



「ベンチ制作WS」も開催

ベンチなど滞留空間の設置物の一部は、市民参加のワークショップで制作しました。



● 活用しやすい環境を確かめる

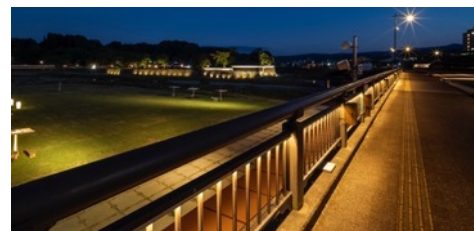
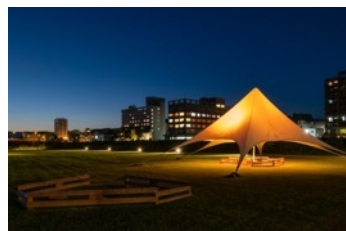
イベント活用を通して、駐車場や動線、電源、仮設トイレなど、必要な設備を確認しました。



→ 検証の記録
P.27 | 環境整備のための活用プログラム

安全性と美しさを生み出す

公園・大橋に仮設照明を設置し、球磨川の水辺夜景を支える場所として、安全な照度を検証しながら、景観資源化の可能性を探りました。



→ 検証の記録 P.26 | あかりの設置

中川原・大橋活用プログラム

まちの担い手の発案のもと、中川原公園や大橋を使いながら、まちの新たな魅力づくりの可能性や、実施に必要な設備・運営ルールを検証しました。

中川原公園

夜のピクニック

令和7年9月6日（土）

令和2年の水害を振り返るとともに、飲食等の出店、ふるまいかき氷、リサイクル市などを開催。



中川原公園に泊まろう！

令和7年10月11日（土）12日（日）

城跡歴史のひろばで実施した音楽フェスの参加者限定で、キャンプサイトとして運営。



球磨焼酎オクトーバーフェスト

令和7年10月12日（日）

球磨焼酎27蔵の飲み比べや焼酎カクテルなどの球磨焼酎の魅力伝える企画を実施。



球磨川マルシェ

令和7年10月12日（日）

県内外の店舗、キッチンカー、遊び、ワークショップなどによるマルシェを公園全体で開催。



小さな森作りワークショップ

令和7年10月12日（日）

球磨川流域で育ったどんぐりなどを使って鉢植えを行うワークショップを開催。



おくんち祭り御旅所設置

令和7年10月9日（木）

かつて御旅所が置かれていた中川原公園に、復旧工事の完了を機に再び設置を試みた。



よさこい祭り

令和7年11月9日（日）

中川原公園にステージを設置し、大橋を歩行者天国化して、よさこいの演舞を披露。



併せて活用！

大橋

球磨川にふれる場をつくる

河川空間を楽しむテラス設置や川遊びを通して、人と川、人と地域がつながる球磨川での過ごし方を探りました。



球磨川テラス

● 球磨川と過ごす場所をつくる

球磨川テラス 左岸（御麵・りんどう前）



胸川沿いの道路を歩行者天国化し、テーブルやベンチなどを設置することで、川を眺めながら過ごせる空間の利用状況や交通への影響、維持管理のあり方などを確認しました。

→ 検証の記録
P.41 | 球磨川テラス 左岸
（御麵・りんどう前）

球磨川テラス 右岸（あゆの里前・鍋屋旅館前）



球磨川沿いの道路を歩行者天国化し、テーブルやベンチなどを設置することで、球磨川を眺めながら過ごせる空間の利用状況や交通への影響、維持管理のあり方などを確認しました。

→ 検証の記録
P.42 | 球磨川テラス 右岸（あゆの里前）
P.43 | 球磨川テラス 右岸（鍋屋旅館前）

球磨川アクティビティ

● 球磨川を安全に楽しむ機会をつくる

川遊びや安全講習、アクティビティ体験を実施し、利用ニーズや安全管理上の課題、運営体制のあり方などを確認しました。市民利用と観光利用の両面から、球磨川を活かした体験価値を検証しました。



みんなで学ぼう！
わくわく川遊び！



Let's Try
くまがわアクティビティ!!

→ 検証の記録
P.45 | みんなで学ぼう！わくわく川遊び！
P.46 | Let's Try くまがわアクティビティ!!

球磨川流域循環

● 球磨川を考えるきっかけをつくる



流域の暮らしや地域同士のつながりについて考える機会をつくり、地域の魅力や課題を共有。人や地域が関わり合う仕組みづくりの可能性を探りました。

→ 検証の記録
P.47 | MIZBERING人吉会議

MIZBERING人吉会議

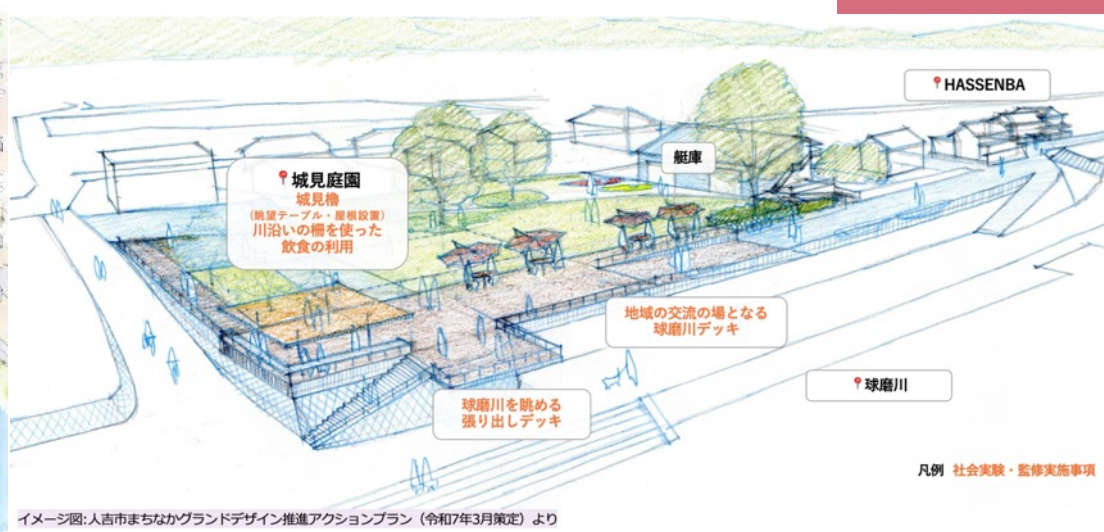
歴史と景観を楽しむ場をつくる

人吉城跡と城見庭園で、歴史的風景や球磨川の眺望を楽しむ場づくりを検証しました。歴史を身近に感じながら、地域の活動や交流が重なる場の活用を探りました。



城見庭園

人吉城跡



●歩きやすく 過ごしやすい空間づくり

歴史館西側の歩行者天国化を行い、歩きやすさや滞留空間のあり方を確認しました。

●夜の風景をつくる

石垣・樹木を照らす照明を設置し、夜の景観価値を確かめました。



●城跡と川の回遊を探索

城跡と球磨川・胸川沿いに回遊可能な仮設階段、散策路を設けました。



→ 検証の記録
P.49 | 人吉城跡周辺の回遊

●イベント利用の ニーズを把握

球磨川を望む公共空間について、大型イベントでの活用ニーズを探りました。



→ 民間自主の取組
P.50 | Rural Act '25 (野外音楽フェス)

●景色を楽しむデッキ

人吉城跡を対岸から眺められる、憩いの場としての可能性を検証しました。



●夜間景観を楽しむ場

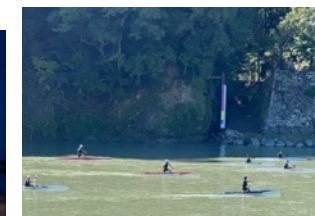
照明を設置し、川沿いの遊歩道の安全性を高めるとともに、人吉城跡のライトアップを楽しむ空間としての可能性も調査しました。



→ 検証の記録
P.52 | 城見庭園のデッキ等の整備

●地域とカヌー一部の交流

水害後に整備された艇庫を拠点に清掃活動等に取り組みました。



TOPICS 歩いて城跡を楽しむ 「フットパス」も開催

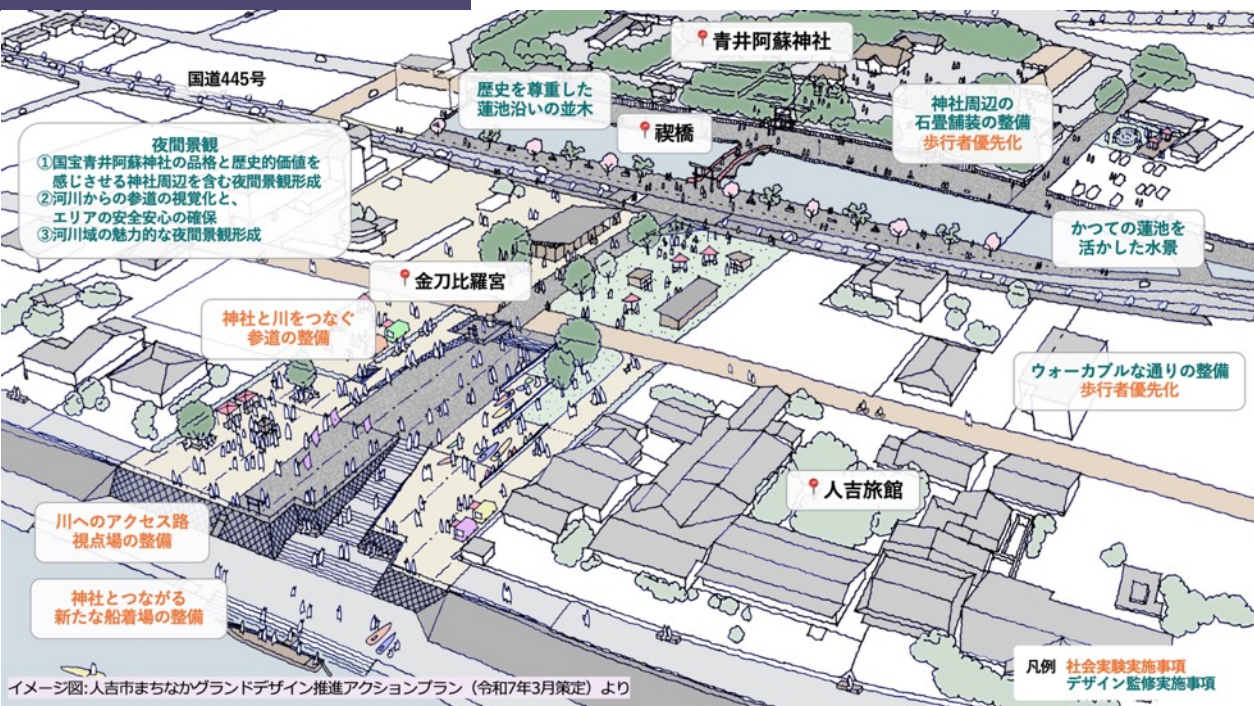
人吉城跡から胸川散策路、城見庭園、鍛冶屋町通り、大橋で行われている歩行者天国を楽しむフットパスも実施しました。実際に歩くことで、社会実験によって生まれた新たな景色や、まちなかを回遊する楽しさを確かめました。

→ 検証の記録 P.68 | まちなかフットパス

歴史・信仰・川をつなぐ

神社周辺の歴史と信仰、球磨川との関係を見つめながら、川へ導く動線や周辺の回遊性を検証し、人吉球磨の心のよりどころにふさわしい空間のあり方を考えました。

青井阿蘇神社周辺



●歩いて巡れる神社周辺へ

車両の通行を一時的に止め、歩行者が安全に歩ける空間を試しました。

→ 検証の記録
P.54 | 青井阿蘇神社周辺の歩行者専用化

●神社と川を結ぶ道を描く

列柱や照明によって神社から川へ向かう軸線を示し、川へつながる階段・視点場を設けることで、設えや景観の見え方、歩きやすくなる動線を確かめました。



●観光プログラムを描く

仮設階段や船着き場を設け、球磨川くだりと青井阿蘇神社周辺をルートとしたコンテンツの可視化と、実現性の確認を行いました。

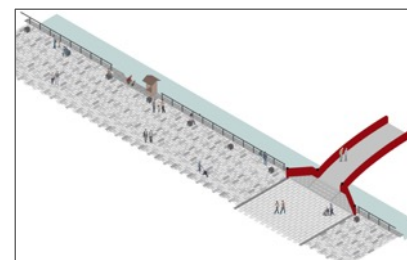
→ 検証の記録
P.55 | 青井阿蘇神社周辺の設え



●あかりを灯す

あかりを設置し、夜間の歩きやすさと、歴史ある空間にふさわしい景観を確かめました。

→ 検証の記録
P.56 | 青井阿蘇神社周辺へのあかりの設置



●デザイン監修

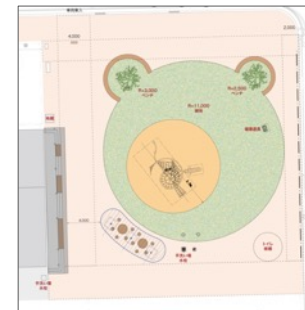
国宝としての神社にふさわしい空間整備が求められる蓮池周辺道路の整備イメージ検討を進めました。

→デザイン監修
P.57 | 青井阿蘇神社周辺の空間整備に向けたデザイン監修

●（仮称）西部公園のデザイン監修

下青井会館との関連性を含めた新たな公園の整備イメージ検討を進めました。

→デザイン監修
P.59 | （仮称）西部公園の整備に向けたデザイン監修



駅前の魅力とまちをめぐる機能を高める

駅前空間では、SL人吉の展示や肥薩線の復旧を見据えた新たな魅力と活用を検討しました。
交通やモビリティにおいては、まち全体の回遊性・利便性の向上を目指した調査や検討を行いました。



交通・モビリティ

●シェアサイクルの拡充 による運用・利用状況検証

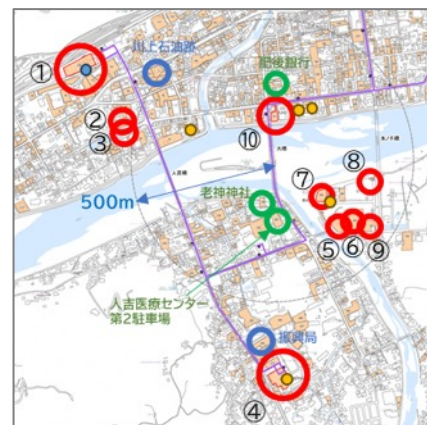
人吉IC、人吉城跡、人吉市役所、くまびばにポートを増設し、自転車台数も10台増やしました。利用回数や移動経路を確認し、利用ニーズと事業性を検証しました。



●まちなかの駐車場状況の調査

市街地にある公共・民間駐車場の収容台数と、イベント開催時の臨時駐車場の利用状況を調査しました。

→ 調査の記録
P.72 | 駐車場



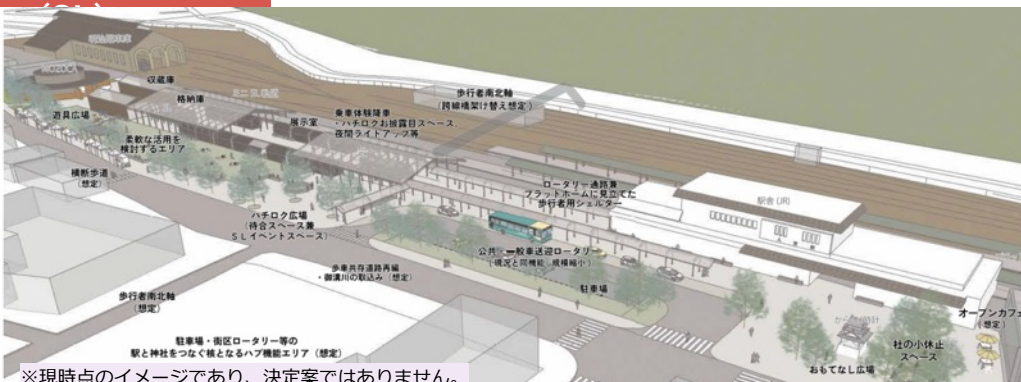
●地域交通のあり方の検討

市内外のバスなどの接続の見直しやシェアサイクルとの連携など、さまざまな可能性を視野に、地域交通のあり方について検討を進めました。

→ 構想・検討の記録
P.71 | モビリティ
(中心市街地における交通拠点全体像)



人吉駅前



●駅前の将来像を描く

SL人吉の動態展示を契機に、駅舎・駅前広場・SL・鉄道ミュージアム・大村横穴群などを一体的に捉え、駅周辺の再編イメージを検討しました。

●利用ニーズと条件を整理する

交通事業者へのヒアリングや利用ニーズの把握を通して、駅前空間に必要な機能や検討課題を整理しました。

●展示と空間の構想を深める

SL動態展示エリアや展示・備品倉庫、エントランスなどの基本構想を検討しました。



TOPICS 駅舎写真展も開催

駅舎空間を活用し、人吉球磨の風景を紹介する写真展を開催しました。アニメファンの来街時の回遊性向上の可能性を検証しました。

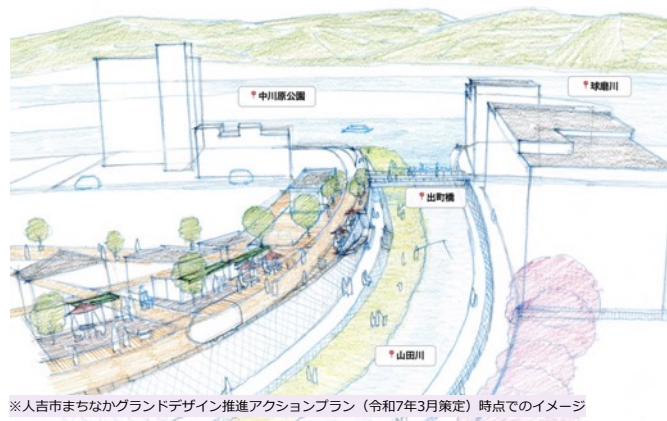
→ 検証の記録 P.67 | 人吉球磨の風景・中村紫苑写真展



点在する低未利用地の活用や川沿いの環境向上を通して、歩いて過ごせるまちなかに向けた構想の検討を進めました。多様な過ごし方を育むことで、まちなかの価値向上を目指します。



山田川



●川沿いを歩き、くつろげる場をつくる

山田川の護岸整備にあわせて、川と親しむ川沿い空間の可能性を描き、歩きやすく、川に近づく空間のあり方の検討を進めました。

● 温泉跡地の次の使い方を描く

空き地を緑の居場所へ転換する令和6年度の社会実験「HITONOWA GREEN UGUISU」を踏まえ、GREEN MALL構想の中核拠点として、公民連携による整備・運営の可能性を含めた検討を進めました。

グリーンモール
まちなか全体へ広がるGREEN MALL構想

緑と水辺をつなぐ回遊ネットワーク「グリーンモール」を形成し、歩いて楽しく、暮らしやすいまちなかを目指します。



まちなかに過ごす場・訪れる場をつくる

日常的に立ち寄り過ごせる場所と、目的を持って訪れたい場所。
市民や観光客によるそれぞれの利用の可能性を検証し、まちなかに新たな居場所と、
繰り返し訪れるきっかけを生み出しました。



まちなかサードプレイス・ひとはこ図書館

日常的に過ごせる、まちなかの居場所づくり



● だれもが立ち寄れる居場所をひらく

肥後銀行人吉支店の1階を活用し、子どもから大人まで、気軽に立ち寄って過ごせるまちなかの居場所をつくりました。

● 本を介した交流を育てる

ひとはこ本棚や本にまつわる企画を通じて、持ち主の思いや関心にふれ、人と人との会話や新たなつながりが生まれる場をつくりました。

● 学びや活動が重なる場をつくる

自習や仕事に使えるスペースを整え、読み聞かせやイベントなど、多様な活動をひらきました。

→ 検証の記録

P.61 | まちなかサードプレイス・ひとはこ図書館



「HITOYOSHIまちなか図書館」 として常設化

社会実験の結果を踏まえ、取組を継承・発展させての常設化が決定。子どもや子育て世代、まちの人、来街者まで多様な人が、本にふれながら過ごせる新たな拠点として、令和8年8月1日（土）にオープン。

場所：人吉市九日町82番地1 肥後銀行人吉支店1階

開館時間：10:00～18:00

休館日：火曜日・水曜日／年末年始等

主な機能：図書閲覧、学習スペース、交流スペース、
企画展示等

妖漫画館

あやかし

歴史を生かし、まちの魅力を高める通りづくり



● 通りを訪れる目的をつくる

鍛冶屋町通りの美術館「Chobit」を活用し、妖怪や妖（あやかし）にまつわる漫画を楽しめる展示の場をつくりました。

● 地域の個性を新しい形で伝える

妖怪祭りなど、通りに根づく文化を生かし、漫画と展示を通して、まちの魅力にふれる機会をひらきました。

● 地域で続ける運営を育てる

地域の担い手や大学生と協働しながら運営を試し、継続に向けた体制や方法を探りました。

→ 検証の記録 P.63 | 妖漫画館



妖漫画館は社会実験後も 継続運営

妖怪をテーマにした漫画の展示施設として、社会実験後も継続運営されています。妖怪や漫画が好きな人に訪れてもらい、鍛冶屋町通りを歩くきっかけとなる場所を目指します。

場所：熊本県人吉市鍛冶屋町60

（展示スペース「Chobit」）

開館時間：11:00～16:00（変更の場合あり）

展示内容：妖怪漫画、地域ゆかりの漫画・雑誌、
妖怪年表、地域の妖怪紹介など約200点

まちづくりを支える仕組みと基盤をつくる

情報発信の取組では、まちづくりの情報を分かりやすく伝え、共感や参加につなげる連携を進めました。
公民連携の取組では、公民が役割を分かち合い、持続可能な事業を生み出す仕組みを整えています。

情報発信

主な情報発信の取り組み



広報ひとよし連載
毎月、まちづくりの
取組を紹介



パンフレット制作
社会実験の
プログラムなどを案内



SNS運用
まちづくりの新着を
リアルタイムに発信



動画制作・配信
取組や現場の様子を
わかりやすく発信



報道発表
報道機関などへの
情報配信を強化



リンクまとめページ
情報への導線を
まとめとして整備

熊本人吉まちの編集室

人吉のまちの魅力などを日頃から発信し続けており、多くのファンを持つ地域の情報発信者3人を編集員として委嘱。まちづくりの情報発信にて連携を行っています。



委嘱式にて発表



編集室の開催



まちづくり現場への取材活動

公民連携

公民連携基本計画

社会実験やデザイン監修と並行して、行政と民間がそれぞれの役割を担いながら、公有地や公共空間を活用した事業を進める仕組みを整理し、今後の民間投資につながる制度設計として、公民連携基本計画の策定を進めました。次年度は、対象となるエリアや事業について、民間事業者との対話や事業手法の具体化を進めます。

人吉市が抱える課題

空き地・インフラ老朽化
まちなかの魅力低下

投資の停滞
新たな事業が生まれにくい

商圏の小ささ
地域を支える人や事業の不足

目指すまちの将来像

住み続けたい・行ってみたい・共に楽しみたいまちへ

暮らしの満足度向上

観光地としての魅力向上

安全・安心なまちづくり

公民連携の考え方

行政
制度・公共空間・環境を整える

民間
事業をつくり、持続的に運営する

公共性と事業性を両立し、地域経済が循環するまちづくりへ

公民連携の進め方

サウンディング
(民間との対話)

事業スキーム検討
選定方法の検討

事業者の選定
契約・協定

事業化準備
工事

供用開始

令和7年度 デザイン監修・社会実験の記録

A dark blue decorative shape, resembling a semi-circle or a rounded rectangle, is positioned on the left side of the slide.

中川原公園

～5/11 公園閉鎖（市の復旧工事）
5/12～7/31 公園開放（車両進入禁止、夜間閉鎖）

8/1～11/9 車両乗り入れを含む24時間開放、什器類・カメラ・照明・
トイレトレーラー設置、増水時対応、民間活用プログラム実施
11/10～ 公園閉鎖（国の護岸工事）

01 | 駐車場利用

背景

中川原公園では、日常時・イベント時での駐車場の将来的利用を想定。水害以前には、公園利用者以外の駐車も見られたことから、必要台数や不適切利用状況の把握、イベント時の安全な運用が求められる。

目的

区画の明示や運用ルールの試行を通じて、必要な駐車台数や不適切利用の抑制、安全な運用方法を検証する。

社会実験内容

車両乗り入れ利用期間：令和7年8月1日（金）～11月9日（日）（終日開放）
駐車可能台数：15台（3時間以上の駐車禁止）
日常時、イベント時それぞれのルールを仮設定し、駐車利用を試行。

検証項目

- ✓ 駐車場の必要台数（15台で十分か）
- ✓ 不適切利用の発生状況と抑制方法（区画外駐車・長時間駐車など）
- ✓ イベント時の主催者による運用方法
- ✓ イベント時の臨時駐車場の案内運用



区分	運用内容
日常時	- 一般車進入・駐車可能（公園利用者のみ）／常駐なし 15台限度 - カラーコーン・コーンバーを設置し、駐車区域を明示
イベント時	- 一般車進入・駐車不可。関係車両のみ進入・駐車可 - イベント主催者責任で台数管理・誘導を行う - 必要に応じて周辺の臨時駐車場を案内（札の辻、城跡）



▲15台の区画をテープで明示



▲駐車場の区域を明示
／コーン・バー設置

検証の記録

● 台数

- ・通常利用で一度に15台以上駐車される日は確認されなかった。

● 不適切利用の把握と抑制

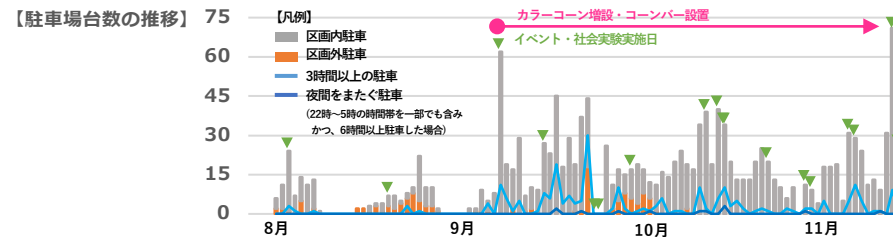
- ・コーン・バー設置（9/6）以降、設置以前に確認された区画外駐車はほぼ解消された。

● イベント主催者による運用

- ・複数の主催者による運用がされた。一部車の交錯が見られたが大きな問題は見られなかった。

● 臨時駐車場の案内運用

- ・多くの催しで臨時駐車場を確保。近接駐車場を求める声はあったが、支障は見られなかった。



考察

15台で概ね充足

現状の利用方法では、日常時の必要台数は15台で概ね妥当と考えられる。

簡易な管理で抑制可能

区画明示による不適切利用の抑制効果が確認され、管理システム導入の必要性は低い。

イベント時の安全誘導は課題

イベント主催者による運用に混乱は見られなかったが、人と車両の交錯を避ける誘導は必要。

行政としての今後の方向性

- 1 駐車場は15台で継続運用する。
- 2 不適切利用防止策はカラーコーン・バーによる運用を継続し、現時点ではナンバー認証等のシステムは導入しない。
- 3 イベント時は主催者によるルール遵守・台数管理を基本とし、車両と歩行者の交錯を避ける誘導ルールを整理する。

02 | 増水時対応・タイムライン

背景

中川原公園は、水害後の治水対策により2mの盤下げを行ったことで増水時に年に1～2回程度、浸水することが想定される。そのため、増水時には公園の施錠や注意喚起、設置物の撤去が求められる。

目的

球磨川の水位変化に応じた対応基準や設置物の撤去ルールなど、増水時に適える適切な運用方法を定める。

社会実験内容

球磨川の水位に応じた公園閉鎖・撤去基準を設定。
増水時の撤去対象物の搬出先を整理。
水位段階ごとの撤去対応手順を設定。

検証項目

- ✓ 増水時の撤去ルール
- ✓ 日常時・増水時の管理運用体制
- ✓ 撤去・再設置に必要な人員・時間
- ✓ 撤去が容易な設置物のデザイン



▲令和5年7月の浸水状況。
人吉観測所の水位2.0m程度で冠水

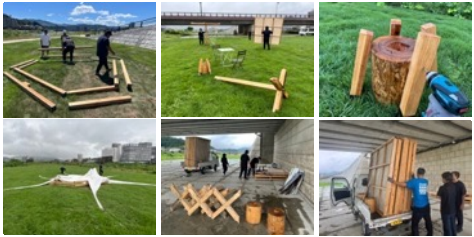
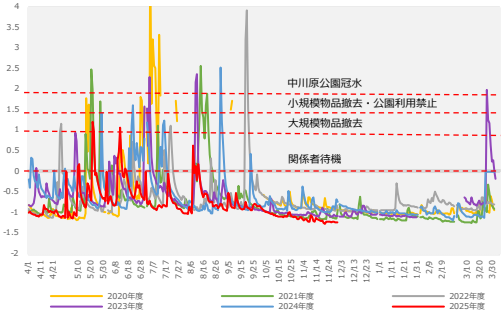
設置物の撤去タイムライン

人吉観測所水位と対応	撤去物品・使用車両・収納場所
水位：0m 関係者待機	※大雨が予報される場合は、早めに撤去を判断し、撤去開始
水位：1m 大規模物品撤去	スターテント → 市のトラック → 市倉庫 トイレトレーラ } サークルベンチ → 市のトラック → 市駐車場等 木製パラソル }
水位：1.5m 小規模物品撤去・公園利用禁止	四角ベンチ } 木座布団 } → 市のトラック → 多門橋 看板、コーン等 } モバイルベンチ → 市のトラック → 城跡屋外
水位：2.0m 中川原公園冠水	

検証の記録

- 設置物の撤去タイムライン設定に沿った撤去・再設置対応
 - ・過去の水位データに基づいて、人吉観測所の水位状況に対する撤去物、使用車両及び収納場所を設定。
 - ・増水時及び花火大会開催時の期間中に計2回の撤去・再設置作業を実施した。
 - ・令和7年度は公園浸水は発生しなかった。
- 撤去・再設置に必要な人員・時間
 - ・撤去・再設置は市役所・民間事業者によるチームで対応し、1回あたりの撤去及び再設置に27人／時の作業量となった。
 - ・毎日24時間の監視を実施。増水時の緊急対応する待機態勢とする人員体制は困難。

球磨川・人吉観測所水位データ



▲撤去作業の様子

考察

撤去時間・体制の不足

撤去を前提とした設置物でも、大規模物品の撤去・運搬に4～5人でも2時間以上かかり、同様の設置物、撤去ルールでは今後維持することは難しい。

行政としての今後の方向性

- ① 撤去作業を軽減するため、物品の改善や残置可能な固定方法の再検討を行う。
- ② 設置物品等の改善を踏まえた撤去ルールの再検討を行う。

03 | 滞留空間設置

背景

中川原公園は水害後に復旧工事が実施され、河川の安全管理上の理由でベンチや日陰などの滞留空間は設置されていなかった。

目的

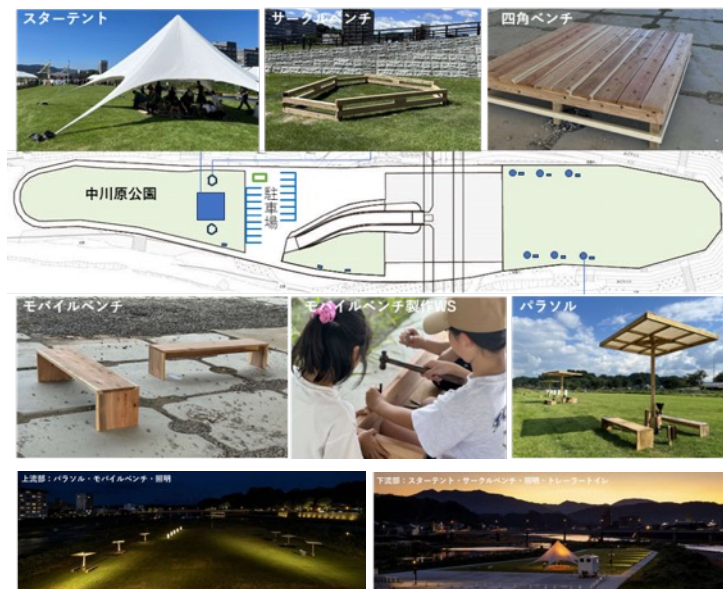
公園としての滞在・利用に関するニーズを把握し、増水時対応も踏まえた滞留空間の必要性について検証する。

社会実験内容

パラソルやテント、ベンチ等の仮設滞留空間を設置。
照明やトイレを含めた滞在環境を整備。

検証項目

- ✓ 必要な滞在環境・設置物のニーズ調査
- ✓ 滞留空間の利用状況の把握

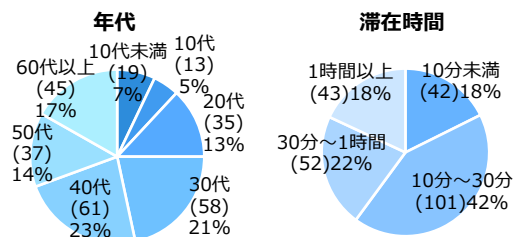


検証の記録

●公園来訪者アンケート調査

- ・様々な年代が来訪し、滞在時間も短・長時間両方が見られた。
- ・日陰やイスなどの滞在空間、トイレ、川に行けるような整備、舗装を平らにしてベビーカーなどの利用がしやすい整備などに関するニーズが非常に多く聞かれた。

【公園来訪者アンケート】回答数：268件



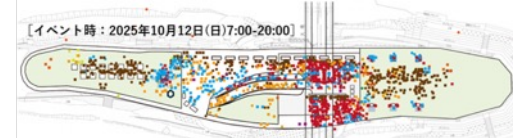
※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

仮設でも公園内にあったらいいなと思うもの 上位5位 (複数回答)

①日陰	129件
②滞在空間	101件
③カフェスタンド	55件
④キャンプ・BBQ	51件
⑤城跡への飛び石	42件

●滞在状況・分布の調査

- ・休憩や散歩、遊び、テント下での滞在、飲食、川遊び、鮎釣りなどの利用が見られた。
- ・日陰のある空間での利用が集中していた。



考察

日陰の不足と滞留施設のバランス

日陰がない空間には滞在があまり見られなかった。また、日陰がないことで利用が少なかった可能性があり、ベンチ等の適切な量を判断することが難しい。

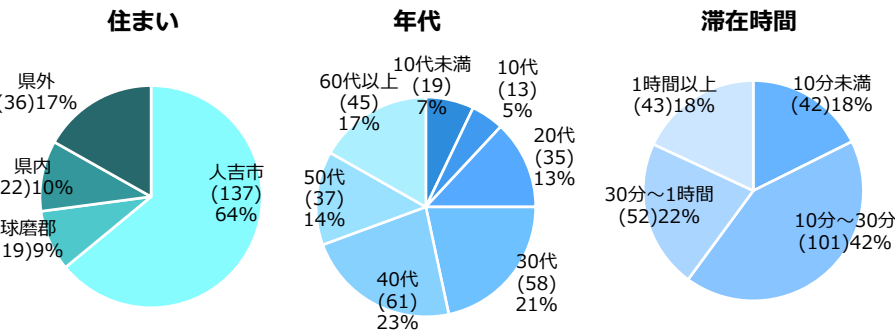
行政としての今後の方向性

- ① 日陰設置や橋下の環境改善について検討する。
- ② 増水時対応も踏まえた設置物について検討する。

03 | 滞留空間設置（調査内容の詳細データ）

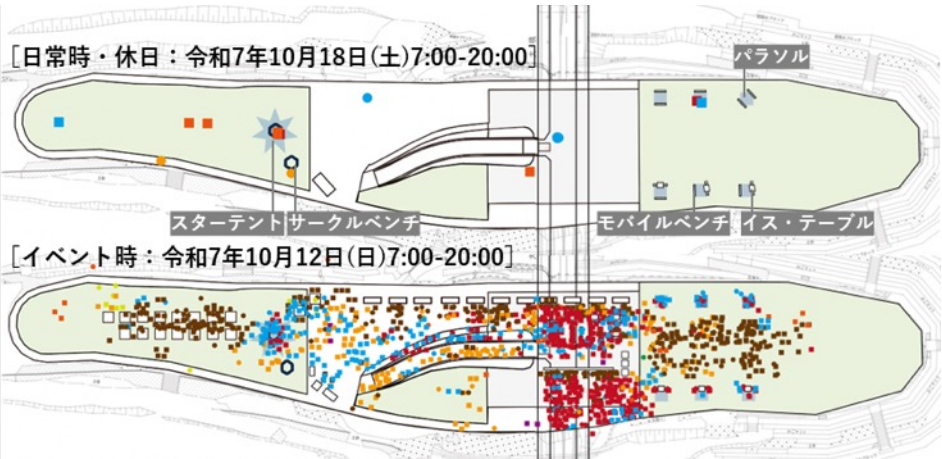
検証の記録

●公園来訪者アンケート調査 回答数：268件

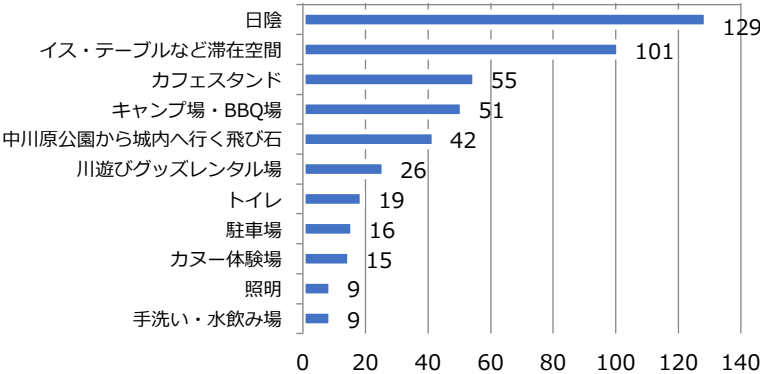


※イベント実施時を除く日常利用でのアンケート結果
※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

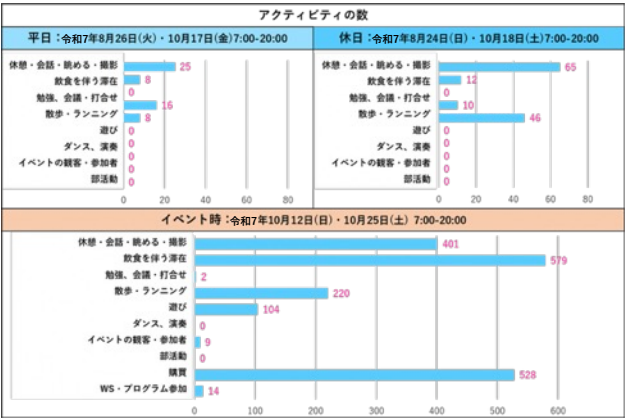
●利用状況に関する調査



仮設でも公園内にあったらいいなと思うもの（上位10位）（複数回答）



※イベント実施時を除く日常利用でのアンケート結果



04 | 定点カメラの設置

背景

増水状況の把握やイベント時の利用状況など、従来の現地確認のみならずリアルタイムでの遠隔確認ができる運用が求められていた。

目的

定点カメラによる遠隔でのリアルタイム利用状況の把握による、公園の利用状況や増水時の確認など、適切な管理方法の検討。

社会実験内容

無電源環境で駆動させるため、ソーラーパネル・LTE対応の定点カメラを仮設で設置。

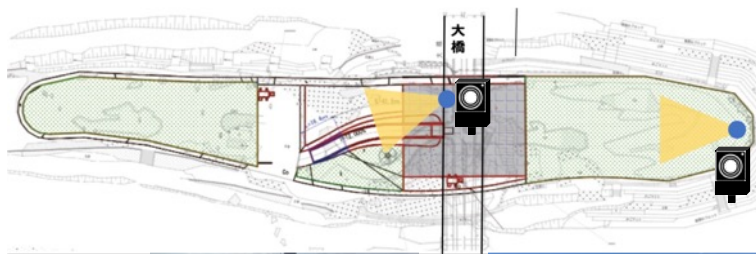
設置数：2か所

設置期間：令和7年8月1日～令和7年11月9日

撮影頻度：10分ごとに静止画を撮影

検証項目

- ✓ 遠隔・リアルタイムでの把握と管理
(利用実態、増水時、イベント時)
- ✓ 駐車場の利用状況の把握



検証の記録

● 定点カメラの運用

- ・駐車台数や公園の利用状況は認識可能であった。
- ・データ容量の制約から、10分間隔での静止画撮影としたため、その間の期間の出来事が把握できなかった。また、画素数の問題により車両ナンバーや利用人物の特定はできないことが分かった。
- ・接触不良や内臓SDカードの不具合により、一時的に撮影ができない状況が生じた。



▲ 定点カメラの設置用ポールの設置の様子



▲ 定点カメラで撮影した画像

考察

遠隔・リアルタイムでの把握の有効性

遠隔から現地状況を確認することで増水時やイベント時を含めた状況把握ができ、管理運用の効率化と迅速な対応への効果が期待できる。

駐車場の運営管理への適用

定点カメラによる車両ナンバーの認証を行う可能性もあったが、駐車場の利用状況からカメラによる認証の必要性は低いと考えられる。

行政としての今後の方向性

- 遠隔からの増水時の確認や駐車場の確認手法のひとつとして、動画撮影かつ高解像度の定点カメラを整備する。

05 | あかりの設置

背景

中川原公園は球磨川を中心にあることから、市民が眺めて楽しむ、宿泊施設からも眺めて楽しめる対象として、球磨川の水辺夜景を支える場所であると考えられる。

目的

今後の公園利活用における夜間の安全性確保と夜景としての価値創出のため、将来の空間整備に向けた仕様や設置箇所等を検討する。

社会実験内容

中川原公園内への照明設備の設置や公園内設置物への投光。
大橋の手すり照明の設置や、護岸から大橋への投光等によるライトアップ。

検証項目

- ✓ 公園内照明設備による視認性と夜景としての価値
- ✓ 大橋上からの公園内の投光による安心安全の確保
- ✓ 大橋の既存照明の消灯とスポットライト及び手すり照明による安全な照度や景観資源化の可能性



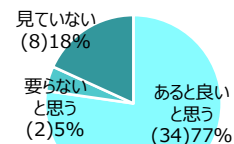
検証の記録

● 来場者アンケート調査

- ・ 中川原公園・大橋の照明は、「あると良いと思う」との意見が多かった。
- ・ 他方で、安全性や衛生面に関する意見も寄せられた。

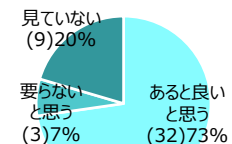
橋上 スポットライト照明

回答数：48件



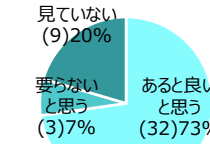
橋上 手すりの間接照明

回答数：48件



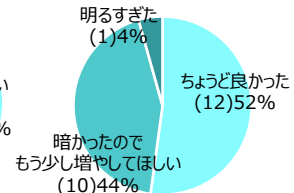
中川原公園内の照明

回答数：48件



中川原公園・大橋の明るさ

回答数：49件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

考察

公園内照明は夜間利用に必要

夜間利用時の視認性確保のため一定の照明設備が必要。また、増水時にも耐える仕様・設計に考慮が求められる。

大橋上からの公園へのスポットライト照明の有効性

一定の範囲を照射する方法として有効。安全照度を確保しつつ、趣のある景観形成に寄与する可能性が確認された。

衛生面の課題

照明があることでクモの巣ができることが確認されており、対策が必要。

行政としての今後の方向性

- ① 公園内に配置する樹木や設備などを風景として見せるための照明を整備。
- ② 公園内の行燈型照明は、増水時の撤去が簡易に行えるよう設計を検討する。
- ③ 大橋の手すり照明は、橋梁のランドマーク化や橋上歩道部の演出効果を踏まえ、整備を検討する。
- ④ 球磨川右岸からの橋梁ライトアップは、景観形成の可能性を踏まえ、整備を検討する。

06 | 活用しやすい環境整備に向けた活用プログラム

背景

中川原公園は水害後の復旧工事により、環境が従前から大きく変化した。水害前との環境変化を踏まえた将来的な利活用ニーズを把握することが求められていた。

目的

中川原公園での利活用ニーズや適したプログラムの把握と、プログラムに合わせた将来の空間整備に必要な設備や利用ルールを検討することを目的とする。

社会実験内容

飲食や物販、夜間利用、キャンプ利用等の多様な利用形態を実施し、イベント時などの運営負担や必要設備、事業性や賑わい形成の可能性等を確認。

検証項目

- ✓ テントサウナやBBQなどの定常的な事業の可能性
- ✓ イベント等に対応した電源設備の設置
- ✓ トイレ、ゴミ箱の設置
- ✓ 給排水設備の必要性
- ✓ 臨時駐車場の必要性
- ✓ 公園・河川利用に関する許認可手続きの必要性

※上記の検証項目は、中川原公園で実施した民間自主による社会実験を通じた共通項目として設定し、検証を行った

活用プログラム

まちの担い手の発案のもと、中川原公園を暫定的に使いながら、まちの新たな魅力づくりの可能性や、実施に必要な設備・運営ルールを検証しました。

PROGRAM 03

中川原公園に泊まろう！



令和7年10月11日（土）～12日（日）

PROGRAM 06

小さな森作りワークショップ



令和7年10月12日（日）

PROGRAM 01

夜のピクニック



令和7年9月6日（土）

PROGRAM 04

球磨川マルシェ



令和7年10月12日（日）

PROGRAM 07

よさこい祭り



令和7年11月9日（日）

PROGRAM 02

おくんち祭り御旅所設置



令和7年10月9日（木）

PROGRAM 05

球磨焼酎オクトーバーフェスト



令和7年10月12日（日）

まちの担い手による活用プログラム
それぞれの記録は次ページから→→→

01 | 夜のピクニック

担い手

御園 豊子さん・松田 亜希子さん（グリーンコープ生協くまもと）

目的

地域の主体として、まちの魅力を伝え、中川原公園を活用することで、人吉での暮らしの豊かさを生み出すことを目的とする。

実施内容

令和2年の水害を振り返るとともに、飲食等の出店、ふるまいかき氷、リサイクル市などを開催。

実施日時：令和7年9月6日（土）16:00～19:00

出店数：7店舗（メーカー、飲食、衣料など）



▲イベント出店の様子



▲夕方の時間帯に実施した盆踊り

担い手の声

- 中川原公園の環境がよく、風が気持ちよかった。過去に開催した他の場所での同イベントと比べて過去最高の来場者だった。
- 来場者の滞在時間は長くない、回転率がよかったように感じた。公園内駐車場は15台でちょうどよかった。
- 公園内駐車場ではなく、周辺に車を停めて歩いてきた方が多かった。
- 出店者には来場者200人程度の想定で商品を準備してもらったが、すべて完売した。
- 夕方の開催のため、照明が整備されていないことで撤収作業に支障があった。また、トイレが未整備だったため、仮設トイレ設置に苦労した。
- 災害支援で人吉に来てもらった人が、その後の復興を知るきっかけがなかったが、これをきっかけに来てもらえた。

担い手のこれから

- 今後も中川原公園でのイベント実施を検討する。

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての収益性等を検証
- ✓ トイレや照明が未整備の状況下でのイベント運営の可能性を検証

※行政では、イベント実施全体の運営として、駐車場の利用状況などの公園機能に関する検証を実施。

担い手の実践から見た考察

来場者の誘導などのイベント運営

夕方からの開催としたものの、想定以上の来場者があったことから、駐車場を利用する来場者の車両と人の交錯が生じ、駐車場での誘導なども実施する必要がある。

他地域での開催イベントの誘致

公園の環境の良さや集客性から他地域で開催しているイベントを中川原公園で開催する可能性を確認できた。

02 | おくんち祭り御旅所設置

担い手 青井阿蘇神社奉賛会

目的

中川原公園をおくんち祭り御旅所の設置場所として活用した際の利用状況や運営上の課題を把握し、御旅所の設置に必要な設備、動線、安全管理、運営条件を検証することを目的とする。

実施内容

水害とコロナ禍以降、御旅所の設置は見送られていたが、復興に向けた取組の一環として、かつて御旅所が置かれていた中川原公園に、復旧工事の完了を機に再び設置を試みた。

行列が中川原公園に入ることから、合わせて大橋を車両通行止め。

実施日時：令和7年10月9日（木）

※大橋の車両通行止めは当日11:30～14:30

御旅所は10月5日（日）に設置



▲中川原公園御旅所全景



▲御旅所での神事の様子



▲大橋を通過する神輿

担い手の声

- 行列参加者やスタッフ約300名が参加。神輿団体は9団体が参加。
- 天候もよく、景観・ロケーションはすばらしかった。
- 御旅所の設置のための広さ、設営に関しての問題はなく、厳かに実施することができた。
- 増水時の撤去の懸念があり、テントを設営するタイミングに気がついた。毎年、開催の約3日前に天候を判断して御旅所を設営しており、今回もその段取りで実施した。
- 担ぎ手の休憩場所を老神神社や大橋下などに分散して設けたが、一箇所に集まる方が運営上・担ぎ手として良いため、公園内上流部にテントを立てることでよかった。
- 大橋通行止めによる大きな問題は見られなかった。
- 中川原公園でお祭りをやっているところに行列が入っていくことが理想であり、人吉温泉まつりなど、まちなかのイベントと合同開催にすることで運営の観点から効率化することも大事ではないか。

担い手のこれから

- 増水時撤去のリスクが大きいものの、環境・雰囲気は良く、他のイベントとの合同実施の可能性も含めて、今後継続検討。

検証項目

- ✓ 行列参加者やスタッフのニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての運営可能性を検証
- ※行政では、イベント実施全体の運営として、駐車場の利用状況などの公園機能に関する検証を実施。また、来場者の行動観察や来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見えた考察

天候リスクへの対応

他のイベントとの同時開催などの場合も含め、増水時の対応リスクは残る。川中のため風も強く、テント設営時、風を考慮した設置が求められるなど、天候の状況に合わせた対応は必要。

03 | 中川原公園に泊まろう！

担い手 祇園下 千裕さん（ドットリバー）/主催：らぞLABO

目的

キャンプ泊の実験を通じて、中川原公園の新たな利活用の可能性とまちなかへの回遊等の波及効果を期待し、今後の持続的な運用に向けた課題や必要な環境整備を検証することを目的とする。

実施内容

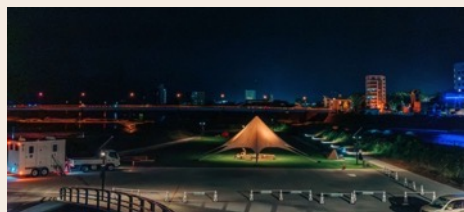
城跡歴史のひろばで実施した音楽フェスRural Act '25の参加者限定で、中川原公園をキャンプサイトとして運営。

実施日時：令和7年10月11日（土）～12日（日）

チェックイン：10月11日（土）9:00～16:00

チェックアウト：10月12日（日）～9:00

※らぞLABOが実施する音楽フェス「Rural Act '25」と同日に連携して実施



▲中川原公園スロープ付近からの全景



▲距離を取ってテントが張られている



▲キャンプの様子

担い手の声

- 1区画3,500円で、4組の利用があった。
- 運営スタッフの常駐時間が長くなったため、チェックイン対応時間を限定的にしてもよかった。
- 公園は本企画の独占利用ではないため、他の一般利用者に理解を得ることが難しかった。
- ごみの持ち帰りや撤収時間などのルールを決めておいたことは有効だった。
- 夜間にトイレトレーラーの電源に不具合があったため、公園設備の管理に課題があった。
- イベント参加者のみならず、市民の一般的な利用希望に関する声も聞かれた。

担い手のこれから

- イベント実施時以外でも、市民から日常時のキャンプニーズの声も聞かれているため、公園の一般利用者とのすみ分けに関する課題を考慮しつつ、継続して検討を行う。

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての収益性等
- ※行政では、イベント実施全体の運営として、駐車場の利用状況などの公園機能に関する検証を実施。

担い手の実践から見た考察

一般利用者とのすみ分けの課題

キャンプ利用に対する公園の独占利用ができなかったことから、夜間に公園来訪者が来ることでキャンプ客の苦情につながったことは課題。

利用ルールの設定の必要性

ごみの持ち帰りや撤収時間などのルールを設定することで、中川原公園でのキャンプ利用の可能性を確認することができた。

04 | 球磨川マルシェ

担い手

鳥飼 絵梨さん（人吉球磨めし）

目的

自ら運営するメディアの企画として、中川原公園でマルシェを開催することで、まちの魅力や人吉の暮らしの豊かさを伝えることを目的とする。

実施内容

熊本県内外の店舗、キッチンカー、子ども向けワークショップ、ヤマメのつかみ取りなどのマルシェを公園全体で開催。

来場者・出店者アンケートによる調査を実施。45店舗が出店。

実施日時：令和7年10月12日（日）10:00～15:00

※「球磨焼酎オクトーバーフェスト」及び「小さな森作りワークショップ」と同会場にて同時開催

担い手の声

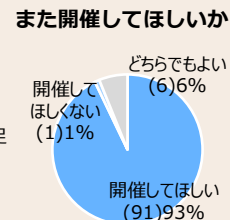
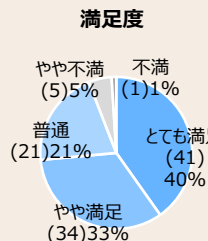
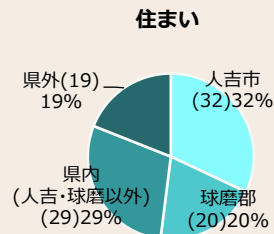
- 想定以上に来場者数があり、出店者・客ともに満足度が高かった。
- 中川原公園は時間によって風景が変わり、景観がよい。
- 出店料収入と準備に係る支出負担等で収支は概ねプラスマイナスゼロ。今後も定期実施する場合、中川原公園・城跡での駐車場を無料で借用できれば、公園使用料（今回は免除）と出店料収入のバランスで黒字化の可能性あり。
- 会場が上流・下流で分かれたため、回遊性や出店者の交流に難があった。
- トイレの不具合があったものの、水道等があったことは良かった。ただ、日陰と座る場所が不足していた。
- 臨時駐車場対応で大きな問題はなかった。歩く楽しみが再認識された。
- 許認可の手続きが明確かつ簡便になるとよい。

調査記録

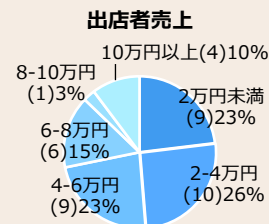
● 来場者・出店者アンケート調査

・人吉球磨以外の来場者も多く、出店者も一定の売上があり、事業創出の可能性が見られた。

【来場者アンケート】回答数：102件



【出店者アンケート】回答数：39件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

担い手のこれから

- 継続的な事業としての可能性を確認。
来場者用駐車場との位置関係など、開催場所を検討の上、継続実施の可能性を検討していく。



球磨川マルシェの様子▶

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての収益性等
※行政では、来場者行動観察や来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見た考察

手続きの明確化・簡易化の必要性

公園や臨時駐車場の利用に関する許認可手続きが明確化・簡易化され無料駐車場が確保できると継続しやすい。

来場者用の駐車場の確保

来場者用駐車場までの距離があるため、近くに確保できる場所があれば、別の場所も含めて継続実施の可能性が見えた。

05 | 球磨焼酎オクトーバーフェスト

担い手

舟戸 貴織さん
(球磨焼酎オクトーバーフェスト運営委員会)

目的

まちの魅力である球磨焼酎をPR・体験してもらうことで、より球磨焼酎を知ってもらい、その価値を伝えることを目的とする。

実施内容

球磨焼酎27蔵の飲み比べや焼酎カクテルなどの球磨焼酎の魅力を伝える企画を実施。

来場者・出店者アンケートによる調査を実施。

販売形態：前売り券・当日券によるチケット形式

実施日時：令和7年10月12日（日）10:00～15:00

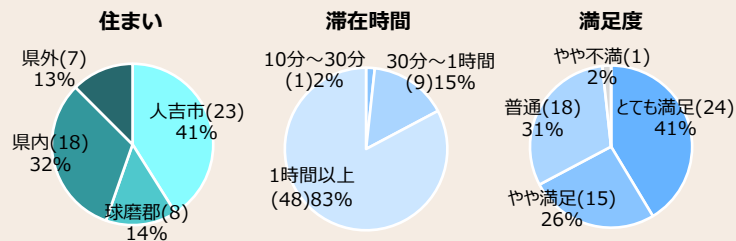
※球磨川マルシェ及び小さな森作りワークショップと同会場にて同時開催

調査記録

●来場者アンケート調査

- ・人吉球磨以外の来場者も多く、約8割が1時間以上の滞在となった。
- ・日陰や座席不足などの環境面への意見も見られた。

【来場者アンケート】回答数：58件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

担い手のこれから

- 事業継続には一定の課題はあるものの、球磨焼酎組合との連携に向けた検討を行い、年数回の定期開催やまちなか飲食店との連携など、年間を通じた取組を模索する。



▲大橋の橋下の空間を活用

担い手の声

- 前売り券70枚、当日券120枚を販売。予想以上の集客があり、蔵元や組合の意識が前向きに変化した。
- 収益性としてはギリギリであり、事業継続の課題は残った。
- イベント運営として、座席や説明員が不足、蔵元との連携も課題。
- 湯沸かしや冷蔵用に電源があるとより良かった。

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての収益性等
※行政では、来場者行動観察や来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見た考察

地域経済につなぐ活用の仕組みづくり

地域産業と公共屋外空間、担い手が連携することで、地域経済への波及効果が期待できると感じられた。担い手や民間事業者が多様な企画を実施しやすいよう、制度や手続き、必要な設備の整備を進め、利用しやすい環境づくりを目指す。

06 | 小さな森作りワークショップ

担い手 椎葉 博紀さん（木人舎）

目的

林業や球磨川流域圏での取組が、人吉のまちづくりと密接につながっていることを、ワークショップを通じて市民や来街者に伝えることを目的とする。

実施内容

球磨川流域で育ったどんぐりなどを使って鉢植えを行うワークショップを開催。

実施日時：令和7年10月12日（日）10:00～15:00

※球磨川マルシェ及び球磨焼酎オクトーバーフェストと同会場にて同時開催

担い手の声

- 10名が参加。収益よりも取組を理解してもらう機会として重要だった。
- 他のイベントと同時開催だったこともあり、初めての参加者もいたことで、新たな繋がりが生まれたことや直接リアクションを感じることができる良い機会となった。
- 一事業者での継続は難しく、仲間づくりや枠組みが必要。
- 育てた鉢植えの苗木が育つまで時間がかかることから、一過性のものではなく、教育プログラムなどと連携して6年の長期プログラム化するなどして、継続的な事業にしたい。
- 宿泊施設や病院、学校で使う食器類など、身の回りのもので、地元の木資源を使って置き換えられるものを深堀りしていきたい。

担い手のこれから

- ワークショップの継続的なプログラム化や地域の木材利用を促進するための取組の検討など、単発だけではない取組の検討を進める。



▲どんぐりの鉢植えを行う様子



▲球磨川流域で育ったどんぐり

検証項目

- ✓ 人吉球磨の地域循環を理解し、木材利用促進に関する関心度をワークショップを通じて高めることができるか検証
- ※行政では、来場者行動観察や来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見た考察

地域資源を通じた流域への関心の創出

公園で地域資源に触れ、流域への関心を深める場として活用できる可能性が確認された。今後は、地域団体や教育機関等と連携し、流域の自然や地域循環を学ぶ多様なプログラムを展開しやすい環境づくりを進めることが望まれる。

07 | よさこい祭り

担い手

人吉よさこい銀翔会・熊本県立大学未来創士

目的

10回目となる「人吉よさこい祭り」を開催するにあたり、大橋・中川原公園を会場の1つとして活用することで、新たな価値創出を図ることを目的とする。

実施内容

中川原公園にステージを設置するとともに、大橋を歩行者天国化して、よさこいの演舞を披露。

中川原公園には地元飲食店の出店も実施。

実施日時：令和7年11月9日（日）10:00～16:00

担い手の声

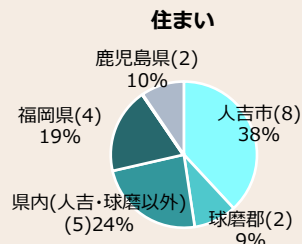
- 中川原公園・大橋を含む4会場・スタッフ70名で実施。当日雨天の対応やオペレーション共有に課題があった。
- 公園内でステージを囲むように参加者を配置したことで一体感が生まれ、高い満足度が得られた。出店者の売上も雨天だったが大きな落ち込みはなかった。
- 大橋と中川原公園の「見る・見られる関係」や空をバックにした演舞は好評。大橋と公園の2会場で音響が干渉したことで、大橋での演舞数は制限した。
- 中川原公園の水はけ、駐車場不足(遠くて子ども連れに不便)、電源確保が課題。
- 仮設トイレの設置費用がかかった。トイレトレーラーが使えなくなり、不足が出た。
- 医療センターへのアクセス（特に日曜）を懸念する住民の声がある。年に2回程度なら許容範囲かもしれないが、積極的な後押しは少ない。
- 会場が大きいため音響設備費が大きく、また、参加者・来場者の駐車場を離れたところに設ける必要があるなど、管理・費用面で運営コストが課題となった

調査記録

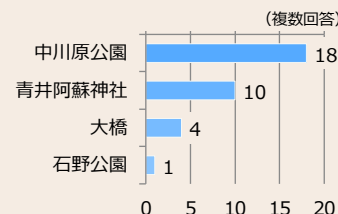
● 来場者・出店者アンケート調査

・来場者は人吉球磨以外からの参加が多く、特に印象に残った会場として中川原公園があがっている踊り子の満足度も高かった。

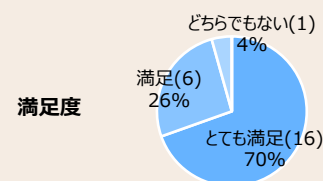
【来場者アンケート】回答数：21件



特に印象に残った会場



【踊り子アンケート】回答数：23件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

担い手のこれから

- 費用対効果や医療センターへの配慮から大橋を会場として実施することは課題。他の候補地（（仮称）青井中央公園）も考えられ、継続して検討を行う。



▲大橋での演舞



▲公園内での演舞

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての運営可能性等を検証
- ✓ イベント実施に際しての大橋周辺の交通影響・地域意見を検証
※行政では、来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見えた考察

緊急車両の迂回に関する懸念

大橋での演舞も含め参加者からは一定の満足を得られたが、大橋を車両通行止めにする事で医療センターへの緊急車両が迂回することが懸念点として残った。

検証結果

※主催者・出店者アンケート調査

●活用のしやすさ

- ・テントサウナやBBQなどの定常的な事業にあたっては、必要な備品等を毎回中川原公園に搬入することは負荷・コストが大きく、設備を常設できないと持続的な運用は難しい。
- ・マルシェなどの中規模イベントにおいては、使い勝手が良い。
- ・音楽フェスなどのステージ設置が必要な大規模イベントは、増水時のリスクや関係者の導線が分離されることなどの理由で適さない。

●電源設備の設置

- ・電源は、あればよいが必須ではない。

●トイレ、ゴミ箱の設置

- ・トイレは、電源・給水が機能すれば実証時に設置したトイレトレーラーで十分。イベント規模が大きい場合は別途実施者が仮設トイレを設置することで対応可能。
※イベント時に、電源切れで水が出ない、給水タンクが空になるなどの不具合があった
- ・ゴミ箱は、イベント時には必要だが、日常時は不要である。

●臨時駐車場の必要性

- ・来訪者用の駐車場は、城跡や第一中学校、札ノ辻駐車場を臨時使用することで十分に対応が可能。なお、イベント出店者用駐車場は中川原公園駐車場で対応可能。

●排水設備の必要性

- ・排水設備は、あればよいが必須ではない。

●公園利用に関する許認可手続きの必要性

- ・利用に関する許認可手続きは、マニュアル化されるとよい。

行政としての考察

臨時駐車場の利用手続き

城跡や第一中学校等を臨時駐車場とする場合、社会実験時は行政支援により無償で借用とし、行政側で利用手続きを行ったが、民間のみでは借用手続きの負担が大きい。また、有償借用とした場合、事業収支が厳しくなる可能性がある。

中川原公園の構造

長細い中洲の形状のため、公園全体を使うイベントの場合、大橋を中心に上流・下流に分かれる形で目が届きにくい、一体感が生まれにくいといった状況が生じるかもしれない。

行政としての今後の方向性

- ① サウナやBBQなどの長期・定常的な事業の是非は継続検討とし、必要に応じて、社会実験の実施を検討する。
- ② トイレは、現状のトイレトレーラーにて継続。給電・給水方法と合わせて設置場所を検討。
- ③ 電源は最小限の整備が必要。給水設備は必要なため維持、排水設備は現状では優先度は低い。
- ④ イベント活動等による公有地利用料の徴収は、収支成立に影響することを踏まえて検討。
- ⑤ 公園利用に関する許認可手続きは、申請フローなど手順の明確化を検討。



大橋

おおはしひろば

背景

今の大橋にあたる橋が架橋されたのは400年以上前であり、大水で橋が流されるたびに修復が行われてきた。球磨川の右岸と左岸をつなぎ、人吉の暮らしを支える重要な橋であり、大橋からの眺めは人吉を象徴する風景である。

目的

大橋から球磨川を眺める人吉ならではの風景や時間の過ごし方を育てるとともに、球磨川とともにある豊かな暮らしを実感できる場としての活用可能性を検証する。

社会実験内容

大橋を歩行者専用化し、滞留空間等の環境を整備。

賑やかなイベントではなく、日常の居場所としての活用アイデアとして、公募により20企画を実施。

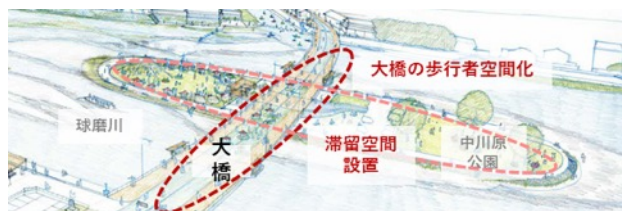
実施期間：令和7年10月25日（土）11:00～22:00

10月26日（日）10:00～16:00

※大橋の車両通行止めは25日9時から26日17時頃まで継続して実施

検証項目

- ✓ 大橋の車両通行止めによる交通影響や歩行者通行量、駐車場利用状況
- ✓ 歩行者専用化した際の滞留空間の整備・運営
- ✓ 大橋における新たな体験価値
- ✓ 歩行者専用化に関する地域の反応



検証の記録

●車両通行止めによる交通への影響（詳細データは次ページ参照）

- ・周辺の病院・消防・公共交通機関と事前協議を行い、車両通行止め時は緊急車両等の迂回をすることで了承を得た上で実施。実施後の関係機関への聞き取りでは、当日出動した緊急車両のうち17台中5台が大橋を迂回して対応を行ったとの結果だった。
- ・一般車両の迂回路は水の手橋が主に選択され、交通量は増えたが平日よりも少なかった。

●周辺駐車場の利用状況

- ・城跡観光駐車場をはじめとする周辺駐車場が不足することはなかった。

●実施運営の検証

- ・備品等を常設できないため、都度搬入・設置する負荷・コストが大きかった。
- ・警備員が2日間常駐することもコストが大きかった。
- ・25日の夜間に大橋の工事があったことで夜間も通行止めとしたが、イベント時の夜間通行止めは現状では警察から認められていない。

●滞留空間に対する満足度

- ・来場者の74%が「とても満足・やや満足」、84%が「今後も日常使いの企画を希望」との回答。
- ・企画実施者の84%が「また企画・出店したい」との回答があり、一定の活用ニーズがあった。

●来場者・地域の考え

- ・通行止めにする必要はなく、中川原でイベントを実施すればよいとの声があった。
- ・来場者の75%が「イベント的に歩行者専用化する方がよい」と回答し、「常に歩行者専用化する方がよい」は13%だった。

考察

人吉を象徴する眺めの価値

山並みや球磨川、城跡の景観、時間とともに移り変わる趣などは独特であり、新たな体験は好評だった。

交通への影響

一般車両の迂回による交通量の偏重などの影響は特段見られなかった。

イベント時の安全誘導や運営は課題

安全誘導のための警備や備品の設営準備などの負担が大きく、持続的な企画実施においては課題となる。

行政としての今後の方向性

- 新たな居場所や体験の場としての価値は確認された。一方で、交通への影響や運営体制などの課題もあることから、今後は、利用希望の内容に応じて、協議しながら適切な運営方法等を検討する。

おおはしひろば（交通量調査の詳細）

検証の記録

●交通量調査の概要

- ・ 平常時（社会実験前）と大橋の通行止め実施中（社会実験中）の交通量を計測し、比較することにより、交通量の変化や道路交通への影響を調査した。

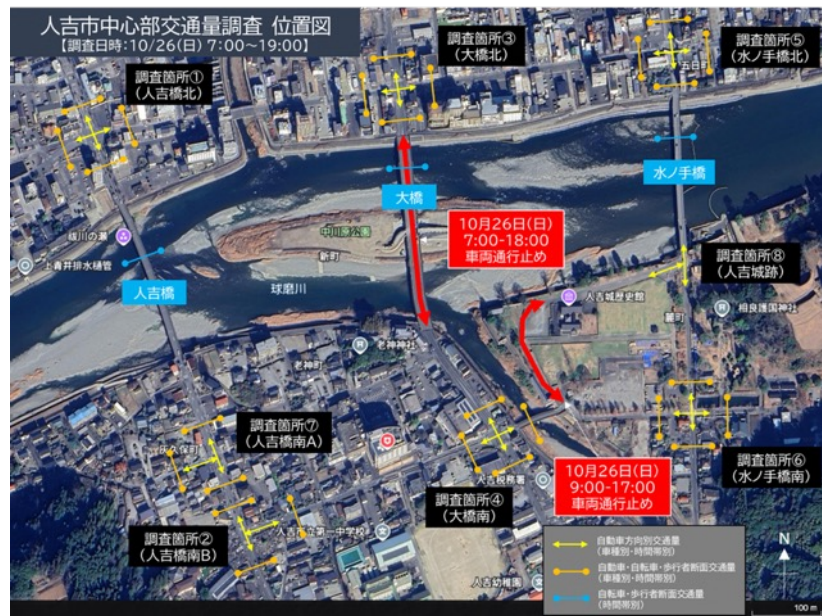
調査日時

社会実験前：令和7年7月13日（日） 7:00～19:00

社会実験中：令和7年10月26日（日） 7:00～19:00

調査方法

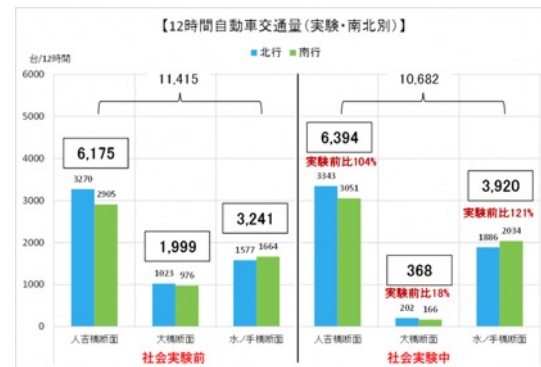
- ・ 下図に示す8か所の交差点にビデオカメラを設置
- ・ 撮影した映像から歩行者・自転車・自動車について、方向別交通量を計測



●交通量調査の結果

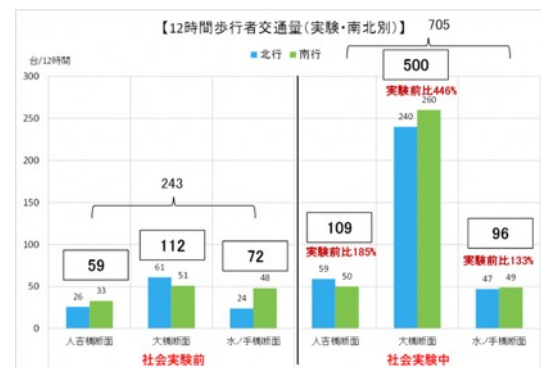
①自動車の交通量

- ・ 水ノ手橋、大橋、人吉橋の3橋の合計交通量は社会実験時に微減した。
- ・ 人吉橋の交通量はほぼ変化がなく、水ノ手橋の交通量が約20%増加した。
- ・ 大橋を通行止めしたことにより、水ノ手橋を迂回路として選択したドライバーが多かったと推察される。



②歩行者の交通量

- ・ 3橋合計の歩行者交通量は、大橋の企画参加者も含まれるため大きく増加。
- ・ 人吉橋及び水ノ手橋でもそれぞれ歩行者が増えていた。
- ・ 大橋のみならず、周辺の地域におけるまち歩き活性化の波及効果があったのではないかと推察される。



▲城跡観光駐車場の様子



▲大橋と駐車場の往来



秋の夜空を眺めよう！



かぜとつながる、美の架け橋



MIZBERING人吉会議



橋上の一服、
風渡る橋の上で抹茶を楽しむ会



おお de かるた



だんすばふおー



どこでも杉パーク



焚火でChill time



竹灯籠づくり
薪割りワークショップ



百人百座百景
大橋・中川原公園でいかが
お過ごしてしたか？



言語交流ワークショップ「世界
を描こう！ことばでつながる」



落陽おにぎり



台湾茶



Local Attitude Live & DJ



ポストイットイラスト展



bar 緑



中川原公園で
スポーツカイトを楽しむ



ルーシーダットン（タイ式ヨガ）



五感で楽しむ手廻し焙煎体験
橋上カフェ 珈琲屋さん



中川原プレイグラウンド



球磨川テラス

球磨川テラス 左岸（御麺・りんどう前）

背景

人吉らしい水辺空間の形成を目指すなかで、球磨川・胸川沿道の担い手から、心地よく歩き、滞在できる空間を作りたいという発案があった。

目的

河川沿いの道路を沿道の店舗や建物と連動して心地よく歩き滞ることができる空間に変えることで、河川沿いの回遊・滞在促進を目指す。

担い手

獄本 武史さん（御麺・りんどう）

社会実験内容

胸川沿いの道路を一定期間、歩行者専用化し、誰でも利用できるテーブルやベンチ等を設置した。

実施日時：令和7年10月4日（土）～令和8年3月31日（火）

検証項目

- ✓ 交通規制による影響、周辺住民への影響等
- ✓ 利用ニーズ、必要設備、運営負荷、民間自主事業としての収益性等



▲胸川沿いの道路の一部で交通規制

検証の記録

●周辺環境への影響

・交通規制による事故等は見られなかったが、沿道居住者からの要望により規制区間を変更し対応。

●主催者ヒアリング

- ・周辺住民の方もイベントに参加し、従前からの交流を踏まえた継続したコミュニケーションを取ることで応援していただけている。
- ・球磨川テラスを継続し、常設化を目指したい。

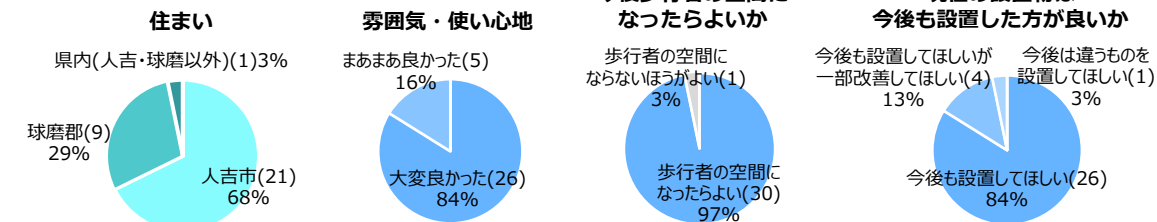
●担い手による運営・事業性の検証

- ・歩行者専用とした空間でイベントを14回、清掃活動4回（令和8年2月20日時点）を実施。
- ・道路空間にテーブルやベンチ、パラソル等を設置し、滞留空間を整備し、日常的な維持管理・運営については支障なく実施できた。

●来場者アンケート調査

・人吉球磨の住民が来訪し、歩行空間化への期待が寄せられた。

【来場者アンケート】回答数：31件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

考察

歩行者専用化の可能性

来訪者からは好評であり、歩行者空間としての常設化に賛同する意見が多く見られた。また、周辺住民・事業者の道路維持管理への協力体制も確立されつつある。

行政としての今後の方向性

- 1 運営や地域影響などを踏まえた周辺住民との合意形成を進め、歩行者専用化・滞留空間化を目指す。
- 2 民間による河川・道路占用に向け、行政による制度化を進めつつ、それまでの間は社会実験を継続する。

球磨川テラス 右岸（あゆの里前）

背景

人吉らしい水辺空間の形成を目指すなかで、球磨川・胸川沿道の担い手から、心地よく歩き、滞在できる空間を作りたいという発案があった。

目的

河川沿いの道路を、沿道の旅館や店舗と連動して心地よく歩き滞りできる空間に変えることで、河川沿いの回遊・滞在促進を目指す。

担い手

有村 友美さん（あゆの里）

社会実験内容

球磨川沿いの道路を一定期間、歩行者専用化し、誰でも利用できるテーブルやベンチ等を設置した。

実施日時：令和7年10月10日（金）～12月26日（金）

検証項目

- ✓ 交通規制による影響、周辺住民への影響等
- ✓ 利用ニーズ、必要設備、運営負荷、民間自主事業としての収益性等

※行政では河川・道路占用手続き、民間運営の可能性を検証。



▲球磨川沿いの道路に滞留スペースを設置する利活用のイメージ

検証の記録

●周辺環境への影響

- ・交通規制による事故等は見られなかったが、利用されている場面があまり見られず、何もしていないのに通行止めになっていることに対する意見が数件あった。

●担い手による運営・事業性の検証

- ・担い手が毎日イス・テーブルを設置・撤収、強風時のパラソルの開閉などの運営管理を実施。強風時にテーブルが出せないなど、天候に左右される面があった。
- ・旅館宿泊客に対して、チェックイン後に鮎の塩焼きを提供するイベントを10月25日（土）に実施。宿泊客の約5割が利用した。

●来場者アンケート調査

- ・担い手による利用場面が限られたことから、アンケート回答数が少なく、十分な検証に至らなかった。



▲球磨川沿いの道路を車両規制し、滞留スペースを設置。

考察

利用者が増える仕組み・運営体制の検討が必要

旅館ロビーから直接アクセスできなかったことなどから利用があまりみられなかった。常設化を目指す場合、利用者が増える仕組みや担い手による運営体制などを再検討した上で、自転車との共存方法など含めて改めて検証する必要がある。

行政としての今後の方向性

- ① 利用者が増える工夫を再検討の上、社会実験の必要性を継続検討する。
- ② 河川道路が通学路であることから、再実験を行う場合は、改めて自転車通行との共存方法を検討する。

球磨川テラス 右岸（鍋屋旅館前）

背景

人吉らしい水辺空間の形成を目指すなかで、球磨川・胸川沿道の担い手から、心地よく歩き、滞在できる空間を作りたいという発案があった。

目的

河川沿いの道路を、沿道の旅館や店舗と連動して心地よく歩き滞ることができる空間に変えることで、河川沿いの回遊・滞在促進を目指す。

担い手

富田 康介さん（鍋屋旅館）

社会実験内容

球磨川沿いの道路を一定期間、歩行者専用化し、誰でも利用できるテーブルやベンチ等を設置した。

実施日時：令和7年10月10日（金）～12月26日（金）

検証項目

- ✓ 交通規制による影響、周辺住民への影響等
- ✓ 利用ニーズ、必要設備、運営負荷、民間自主事業としての収益性等

※行政では河川・道路占用手続き、民間運営の可能性を検証。



▲球磨川沿いの道路に滞留スペースを設置する利活用のイメージ

検証の記録

●周辺環境への影響

・交通規制による事故等は見られなかったが、利用されている場面があまり見られず、何もしていないのに通行止めになっていることに対する意見が数件あった。

●担い手による運営・事業性の検証

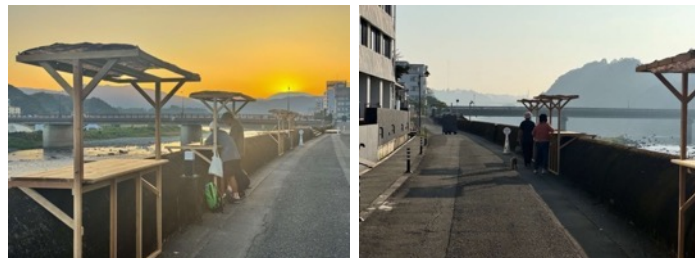
・河川道路にカウンターを設置し、運営管理を実施。
・屋外での昼飲みをターゲットとして、鍋屋旅館1階のバーで15時から18時頃に不定期でドリンク提供を行った。旅館受付で屋外カウンターを案内するも、屋外よりも室内ラウンジを選ぶお客様が多く、利用は低調だった。

●来場者アンケート調査

・担い手による利用場面が限られたことから、アンケート回答数が少なく、十分な検証に至らなかった。

●主催者ヒアリング

・室内ラウンジを選択するお客様が多く、また、チェックイン後の時間帯は夕食準備などの対応でバースタッフの体制を確保することが難しかった。



▲球磨川沿いの道路を車両規制し、滞留スペースを設置。

考察

利用が増える仕組み・運営体制の検討が必要

バー運営があまりできなかったことなどから利用があまりみられなかった。常設化を目指す場合、利用が増える仕組みや担い手による運営体制などを再検討した上で、自転車との共存方法など含めて改めて検証する必要がある。

行政としての今後の方向性

- 1 利用が増える工夫を再検討の上、社会実験の必要性を継続検討する。
- 2 河川道路が通学路であることから、再実験を行う場合は、改めて自転車通行との共存方法を検討する。



球磨川アクティビティ・流域循環

01 | みんなで学ぼう！わくわく川遊び！

背景

球磨川が暮らしの中心にある人吉市において、令和2年豪雨災害を経たこともあり、川とふれあう機会や場が限られていた。

目的

川遊びのニーズや適した場所などを検証することで、川と暮らしの共存に向けた川とのふれあいの機会の創出を目指す。

社会実験内容

川での安全な遊び方について、胸川をフィールドとしてインストラクターの指導の下、安全講習・川遊びの体験会を実施。

実施日時：令和7年8月20日（水）、9月13日（土）

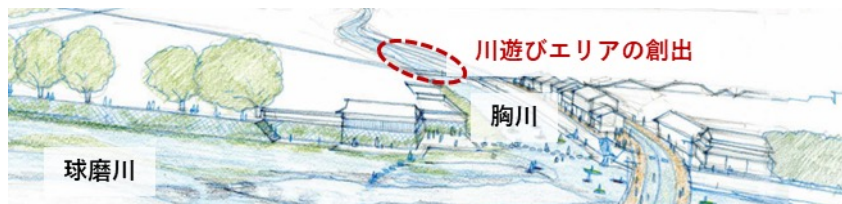
いずれも10:00～12:00に開催

定員：各回先着30人

※子どもの参加は保護者同伴での参加を条件として実施した
インストラクター：迫田 重光さん

検証項目

- ✓ 川遊びに対するニーズの把握
- ✓ 川遊びを実施する場合に適した場所の選定
- ✓ 安全対策を含めた運営体制



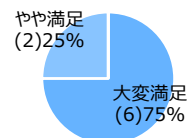
検証の記録

● 来場者アンケート

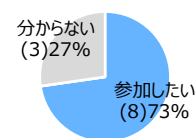
- ・ 2回実施したが両回とも定員に達する申込みがあった。
- ・ 参加者の満足度は高く、また川遊びをしたいという声が多く聞かれた。

【来場者アンケート】回答数：保護者8件、子ども11件

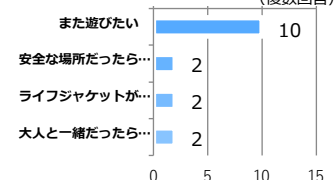
満足度（保護者）



また参加したいか（子ども）



また川遊びしたいか（子ども）（複数回答）



● 運営体制と場所の選定

- ・ 今回実施した胸川の下流部は、安全にアクセスでき、万が一の場合でも救助がしやすい。また、一部流れが速い箇所もあり、川遊びに適した場所だった。
- ・ インストラクターはリバーアクティビティ事業を実施する会社であり、夏が繁忙期のため、今回のように単発の実施であれば可能だが、継続して夏期に対応することは困難。



▲ライフジャケットを付けて安全講習・川遊びを実施

考察

安全に川にふれあう場

昨年実施した球磨川・胸川合流部に比べ、胸川下流部は川遊びに適した場所と確認できた。

安全管理と運営体制

安全講習を継続的に実施できる専門家が不足しており、継続するためには人材育成が必要。

行政としての今後の方向性

- インストラクターの育成などを通じた体制や実施場所などを含め、継続的に検討する。

02 | Let's Try くまがわアクティビティ!!

担い手 球磨川ラフティング協会

目的

中川原公園などの親水エリアにおいて、新たな川遊びのニーズを探索するとともに安全に運営できる可能性を検証する。

実施内容

中川原公園やHASSENBA周辺などにおいて、SUPやゾーブ、テントサウナを実施。

実施日時：令和7年9月27日（土）、10月19日（日）

いずれも10:00～15:00



▲SUP



▲ゾーブ



▲テントサウナ

検証の記録

●担い手による運営・事業性の検証

・球磨川や胸川合流地点、中川原公園において、定員や料金を設定の上、それぞれ以下の内容で実施した。

SUP：1時間3,000円、定員10名

ゾーブ：10分500円、定員3名

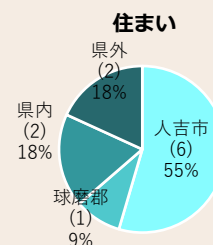
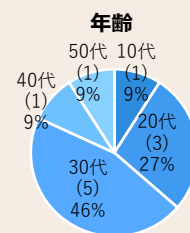
テントサウナ：1時間2,000円、定員5名 ※いずれも1日5回受付

・各イベント2名の合計6人で運営。事業収支は赤字となった。

●来場者アンケート調査

・参加人数は少なかったが様々な年代や地域から参加があり、満足度は高かった。
・価格設定については、種目によって安い・適切・高いそれぞれの意見があった。

【来場者アンケート】回答数：11件



担い手の声

- ・告知が遅れたことも影響し、集客ができなかった。
- ・人員確保、時期による河川環境的課題などから、事業化に向けてのハードルは高い。

担い手のこれから

- 定常的な事業とするには課題が多く、球磨川ラフティング協会としての事業化は困難。

背景

市民や来街者がまちなかで川にふれ、楽しむ機会が減っていたことから、川のアクティビティプログラムを提供する取組が発案された。

検証項目

- ✓ 利用ニーズ、必要設備、運営負荷、民間自主事業としての収益性等

担い手の実践から見えた考察

事業性の課題

まちなかで川にふれる機会を提供する取組として、一定の利用ニーズが確認された。一方、継続的な実施には、周知方法、安全管理、人員確保、実施時期、運営主体などの課題がある。今後は、民間主体による継続の可能性とともに、市が担う支援や公共空間の利用条件について整理する必要がある。

03 | MIZBERING人吉会議

背景

球磨川を中心とした人吉のまちなかと球磨郡との関わりとして、球磨川流域全体における地域循環や流域治水に関する理解が求められている。

目的

復興まちづくりを人吉市中心部だけでなく球磨川流域全体の取組として捉え、地域循環や流域治水をきっかけとした新たな関係性や活動を生み出す。

社会実験内容

新たな水辺の活用の可能性を切り開くために全国で実施されている官民一体の協働プロジェクトであるMIZBERING（ミズベリング）の地域会議を開催。球磨川流域全体での流域治水によるまちづくりを考える。

実施日時：令和7年10月26日（日）13:00～15:30

場所：大橋 ※おおはしひろば実施内にて同時開催

主催：MIZBERING人吉会議実行委員会

※国土交通省八代河川国道事務所、熊本県球磨川流域復興局、人吉市復興支援課、人吉市まちづくりデザイン会議により構成

検証項目

- ✓ 復興まちづくりに向けた官民の取組や地域の担い手の活動への関心
- ✓ 流域治水から広がる、人吉球磨地域の新たなつながりと活動の可能性



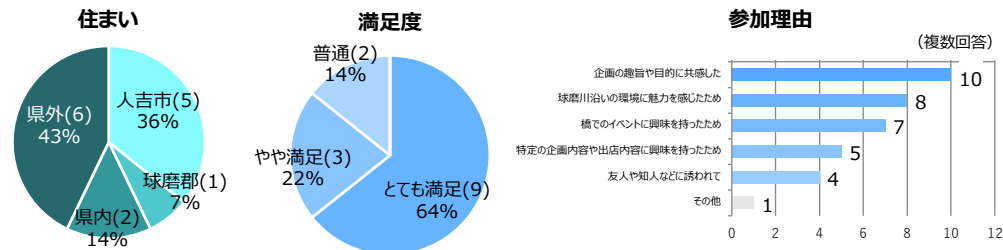
▲おおはしひろばを会場として開催

検証の記録

●来場者アンケート

- ・社会実験の担い手や地域の方、国・県・市の担当者等が30名程度参加。
- ・企画趣旨への共感や球磨川沿いの環境への興味など、様々な参加理由が見られた。

【来場者アンケート】回答数：14件



●主催者ヒアリング

- ・球磨川が暮らしに根付く人吉のまちづくりで、復興まちづくりの官民の動きとその土台となる流域治水の両方について、関係者間で想いを話し合う場が欲しかった。
- ・地域の担い手や事業者、国県市の担当者それぞれの立場でも一歩踏み出そうという人がいて、そういう人を応援できる場やつながりが大切ということを再認識できた。
- ・マルシェなどの企画を通じて楽しむという空間を中川原公園という場で作れたこと自体が流域治水の取組という意見があった。
- ・球磨川でつながる森とまち、人々に思いを寄せるきっかけとなる動きを進めたい。

考察

自ら取組を進める人たちを応援する場

様々な立場から多くの関係者が関わる復興まちづくりと流域治水に関して、官や民の立場に関わらず、一歩踏み出そうという人々を応援する場やつながりの重要性を認識する場となった。

行政としての今後の方向性

- 民間の担い手や行政機関が連携して、流域全体の地域循環に関わる取組を継続して検討・実施する。



人吉城跡周辺

01 | 人吉城跡周辺の回遊

背景

人吉城跡は、歴史的雰囲気より深く近くに感じられるような工夫や、城跡の中と周辺エリアとの回遊性を高める課題がある。

目的

令和7年の人吉城歴史館のリニューアルとも連動し、滞留空間づくりなど、人吉城跡の内外における回遊性・魅力の向上に向けた整備事項を検証する。

社会実験内容

城跡の内外に将来の常設を見据えた設備や滞留空間を設置。

実施個所と内容

球磨川・胸川沿いを回遊仮設する階段・散策路の設置：令和7年11月13日（木）～30日（日）
9:00～17:00

歴史館西側道路の歩行者天国化：令和7年10月4日（土）～11月3日（月・祝）の土日祝
9:00～17:00

石垣や樹木を照らす夜間照明の設置：令和7年10月8日（水）～令和8年1月18日（日）
17:00～22:00

ベンチ等の滞留空間の設置：令和7年10月4日（土）～ ※継続中

仮設の階段・散策路、照明は、河川管理者（国・県）と協議の上、市が占用して設置した。



検証項目

- 滞留空間の利用状況や利用ニーズ、回遊状況、交通影響

検証の記録

来場者アンケートと利用実態の調査

- 回遊性を高める階段・散策路、夜間照明、滞留空間に対して、仮設であったことから改善意向が見られるものの、常設を希望する意見が多かった。

【来場者アンケート】回答数：29件

住まい

歴史館西側道路の歩行者空間化について

滞留空間について

階段・散策路の常設化について

※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

【階段・散策路利用数調査】

平日：11/14(金)	休日：11/15(土)
総数：26人（3人/h）	総数：64人（8人/h）

※ビデオカメラを設置し、撮影した映像から9～17時の間で利用した人数を計測

交通影響

- 交通量調査の結果、一般車両の迂回による交通量の偏重などの影響は特段見られなかった。

考察

新たな回遊・景観価値

石垣を下から望む散策路や、夜間景観について、来場者から一定の評価が得られた。

整備・維持管理の検討

常設化には、文化財としての計画的な保存・整備や河川管理者との協議、整備・維持管理体制の整理が必要。

行政としての今後の方向性

- 階段・散策路は、飛び石や既存階段の改修とあわせて検討する。
- 河川区域外の石垣上の照明は常設化を進め、河川区域内は引き続き協議・検討する。
- 城跡内の歩行者専用化は、保存活用計画とあわせて検討し、必要に応じて改めて社会実験を行う。

02 | Rural Act '25（野外音楽フェス）

担い手

北 貴之さん（一般社団法人らぞLABO）

目的

球磨川らしい景色を活かした公共空間を大型イベントで活用し、地域の姿を体感してもらう機会を創出すると同時に、地域経済への波及効果を生み出すことを目指す。

実施内容

人吉城跡ふるさと歴史の広場にステージを設置し、人吉球磨の魅力を体感する人吉球磨初の野外音楽フェスを開催。

実施日時：令和7年10月11日（土）11:00～19:00（9時開場）

検証の記録

●担い手による運営・事業性の検証

- ・チケットは約1,200枚を販売。公式HPのPV数13,016回、Instagramフォロワー数1,011名、総リーチ数は約29.6万に加え、複数の全国メディアに取り上げられた。
- ・収支面では課題が残り、入場料以外の収益確保の必要性あり。

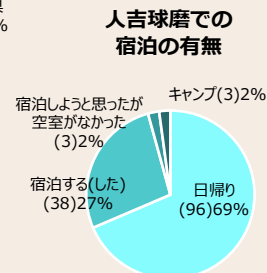
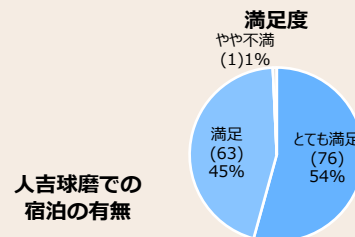
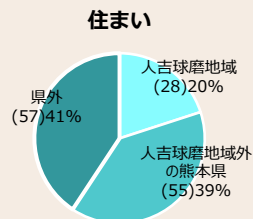
●来場者アンケート調査

- ・人吉球磨以外からの来場が8割を占め、99%が満足。約3割が宿泊しており、来場者の一定の消費も見られた。

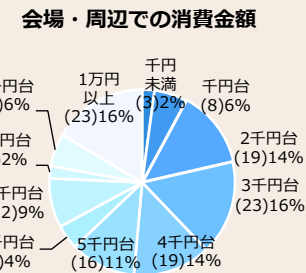


◀会場の様子

【来場者アンケート】回答数：140件



※円グラフのカッコ内は回答数。
未回答を除く有効回答を対象に集計



担い手の声

- ・来場者は多かったが、駐車場案内や移動手段に課題が見られた。シャトルバスの確保が難しいなど、交通・案内・コストへの対応が課題である。
- ・当初は中川原公園での実施を考えていたが、演者の独立導線確保やステージ設営に関する増水時リスクの管理などから、ふるさと歴史の広場で実施を選んだ。

担い手のこれから

- 来年度も継続開催に取り組む。ふるさと歴史の広場を活用したい。

背景

復興の進む人吉の姿を、全国からの来場者を含むまち内外の老若男女に知ってもらえる場づくりを考えるまちの担い手による発案。

検証項目

- ✓ イベントに対するニーズ、必要設備・運営負荷・民間自主事業としての運営可能性等を検証

※行政では、イベント実施全体の運営として、文化施設としての活用の可能性や駐車場の利用状況などの機能に関する検証を実施。また、来場者アンケートなどの調査を合わせて実施した。

担い手の実践から見た考察

まちなかにおける大型イベントの実施が可能な場所

まちなかでステージ・音響を伴うイベントの実施可能な場所として、中川原公園は増水時リスクなどから困難であり、ふるさと歴史の広場に会場は限られることが分かった。一方でふるさと歴史の広場は史跡内であることから、今後の活用について行政・民間で検討・協議を行い、来年度の継続開催に向けて検討を進める。



城見庭園

城見庭園のデッキ等の整備

背景

令和2年7月豪雨災害後にカヌー艇庫やコミュニティ施設の整備に向けた動きがあったが、令和6年度に地域と協議し、トイレを含む建物は作らず、城見庭園と同じレベルにデッキを整備し、良好な景観を確保する方針で進めてきた。

目的

球磨川と人吉城跡を眺めることができる貴重な場所としての価値を高め、川辺の良好な景観を確保する場の在り方を検証する。

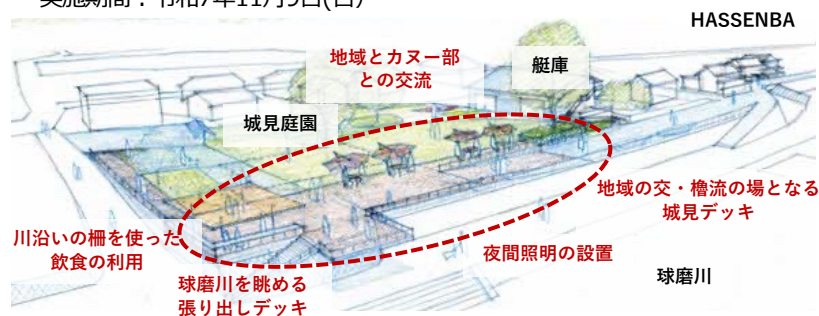
社会実験内容

城見庭園の一部に将来の常設を見据えた仮設のデッキ、あずまや、夜間照明を整備して、一般利用として開放した。

実施期間：令和7年10月14日（火）～11月9日（日）

地域とカヌー部との交流を目的に地域・高校カヌー部による清掃活動を実施。

実施期間：令和7年11月9日（日）



▲川に張り出す仮設デッキ



▲夕景を望むデッキからの景色

検証項目

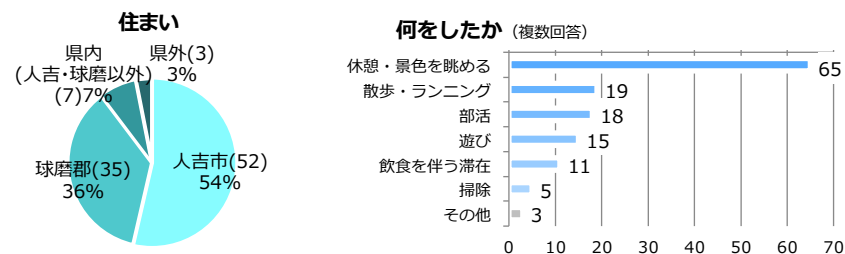
- ✓ 滞留空間の利用状況やニーズ、設え、地域の意向を踏まえた常設化の可能性など

検証の記録

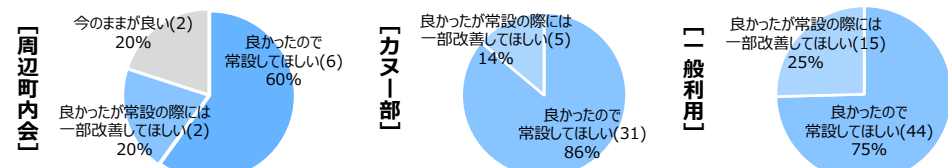
●来場者アンケートと利用実態の調査

- ・人吉球磨からの来場者が多く、休憩や景色を眺める場所として活用された。カヌー一部生徒と保護者、周辺住民との清掃活動も行われた。
- ・施設の常設化については、町内会・カヌー部・一般からのいずれも肯定的な意見が多く見られた。

【来場者アンケート】回答数：116件（うち町内会19件、カヌー部38件、一般利用59件）



常設化の意向



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

考察

常設化意向の確認

地域との協議を踏まえた仮設デッキ等を整備したことで、球磨川の景観や夕刻の眺望を楽しむなどの住民利用の姿や、アンケートでの常設化を肯定的に捉える意見を確認することができた。

行政としての今後の方向性

- 1 検証の内容について周辺住民との対話を行い、同意を得た上で、常設化に向けた詳細設計や国との協議を進める。特にカヌー部活動範囲と滞留空間の棲み分けについては今後要検討。
- 2 カヌー一部生徒・保護者・周辺住民の方々との清掃活動は継続実施。



青井阿蘇神社周辺

01 | 青井阿蘇神社周辺の歩行者専用化

背景

青井阿蘇神社周辺は、土地区画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道などの空間再編を行うとともに、神社周辺の安全確保などが求められている。

目的

国宝である青井阿蘇神社を中心としたエリアの価値向上のため、神社との関係性などを踏まえた空間再編の在り方を検証する。

社会実験内容

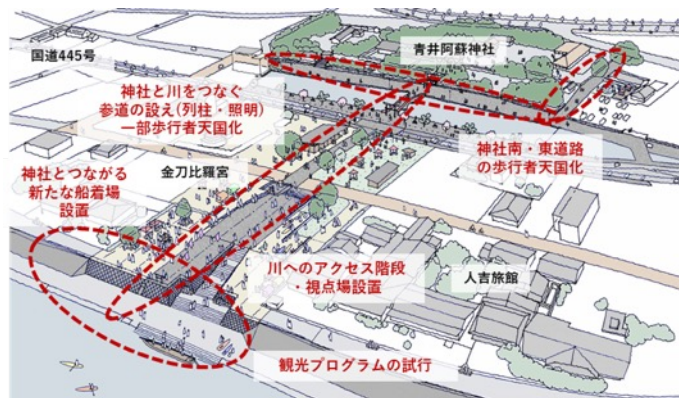
青井阿蘇神社南・東側の道路の歩行者専用化による空間再編への影響の検証を実施。

○青井阿蘇神社周辺の空間再編

実施期間：令和7年10月1日（土）～令和8年1月18日（日）

検証項目

✓ 青井阿蘇神社周辺道路の一部における歩行者専用化による交通影響や運営方法



※現時点での設計案のため変更になる場合があります。



▲車両通行止めのための看板を設置

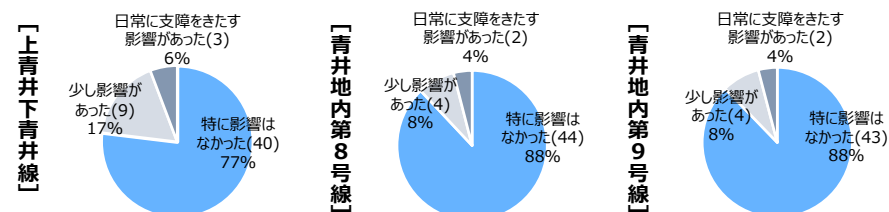
検証の記録

●地域住民・事業者・来場者アンケート調査

- ・歩行者専用化期間中、実施による事故は発生しなかった。
- ・約8割程度は「影響はなかった」との回答だったが、一部地域住民にとっては、日常的に道路を車両で通行する抜け道となっているため、離合や国道445号へのアクセスが混雑することなどの影響の声が聞かれた。
- ・来場者からは「歩行者用の空間になったらよい」との回答がほとんどだった。

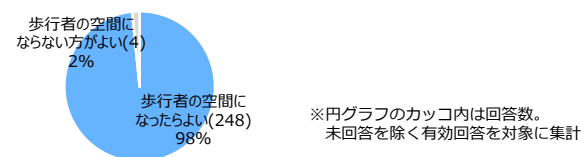
【地域住民・事業者アンケート】回答数：55件

車両通行止めによる日常の通勤等の影響の有無



【来場者アンケート】回答数：283件

歩行者専用化への意向



考察

歩行者空間化による影響対策が必要

来場者のほとんどは歩行者専用化に好意的であるが、生活や事業で日常的に車両通行している方の一部からは「影響があった」との声もあり、解決策の並行した検討が必要。

行政としての今後の方向性

- 日常利用する住民等の生活影響を考慮した交通規制の在り方について、関係機関とも連携した検討を実施し、課題解決策に取り組む。

02 | 青井阿蘇神社周辺の設え

背景

青井阿蘇神社周辺は、土地区画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道などの空間再編を行うとともに、神社周辺の安全確保などが求められている。

目的

国宝である青井阿蘇神社を中心としたエリアの価値向上に向け、神社との関係性などを踏まえた空間再編の在り方を検証する。

社会実験内容

神社周辺の空間再編として青井阿蘇神社と球磨川をつなぐ参道の整備を想定した道（列柱・照明）や川への通路の階段を仮設。また、観光プログラムの創出に向けた試行を実施。

○青井阿蘇神社周辺の空間再編

実施期間：令和7年10月1日（土）～令和8年1月18日（日）

○観光プログラムの試行

実施期間：令和7年11月22日（土）、12月13日（土）、令和8年1月17日（土）

検証項目

- ✓ 青井阿蘇神社と球磨川をつなぐ道のあり方や見え方、階段・視点場の設置などの設え
- ✓ 球磨川くだりと連携した観光プログラムやルートの可視化と実現性の確認



▲それぞれの検証の様子

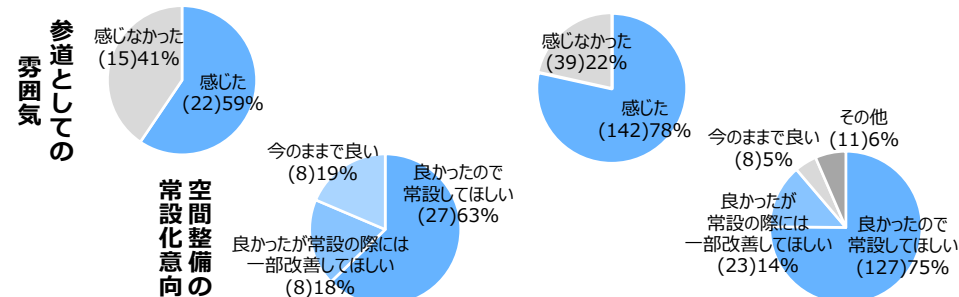
検証の記録

●地域・来場者アンケート調査

- ・列柱を仮設した神社から球磨川につなぐ道路の設えは、来場者の約8割が「参道としての雰囲気を感じた」との声だった。
- ・他方で、地域住民・事業者では約6割が「参道としての雰囲気を感じた」との回答で、「列柱の意図が分からない」などの意見もあり、感じ方は分かれる結果となった。
- ・あかりの演出、参道、階段、視点場の常設化について、仮設整備に対する改善意向はあるが、地域住民・事業者の約8割、来場者の約9割が常設意向があった。川に下りられる階段設置を求める意見は多かったが、高齢者には階段は不向きという意見も見られた。

【地域住民・事業者アンケート】回答数：55件

【来場者アンケート】回答数：283件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

●運営事業者へのヒアリング

- ・球磨川くだりの渇水期などにおける新たなルート造成の可能性の一助になったとの声だった。

考察

常設化意向の確認

神社から球磨川へのアクセスに関して、参道としての雰囲気醸成などについては工夫が必要なものの、一定の常設化に対する意向が確認された。

行政としての今後の方向性

- 地域や来訪者からの意見を踏まえつつ、周辺の広場やまちなみと一体となった環境整備の設計等を継続検討する。

03 | 青井阿蘇神社周辺へのあかりの設置

背景

青井阿蘇神社周辺は、土地画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道などの空間再編を行うとともに、神社周辺の安全確保などが求められている。

目的

国宝である青井阿蘇神社を中心としたエリアの価値向上に向け、神社との関係性などを踏まえた空間再編の在り方を検証する。

社会実験内容

神社周辺の空間再編に伴う夜間滞在の増加や安全安心な空間づくりに向けた夜間景観（あかり）の魅力向上に向けた検証を実施。

実施期間：令和7年10月1日（土）～令和8年1月18日（日）

※球磨川～青井阿蘇神社参道は令和7年10月28日（火）から開始

検証項目

- ✓ 青井阿蘇神社と球磨川をつなぐ通路に設置した列柱や道路照明の配置や明るさ、空間演出の効果など



▲参道・広場・河川沿いなど、場所ごとのあかりの見え方を確認

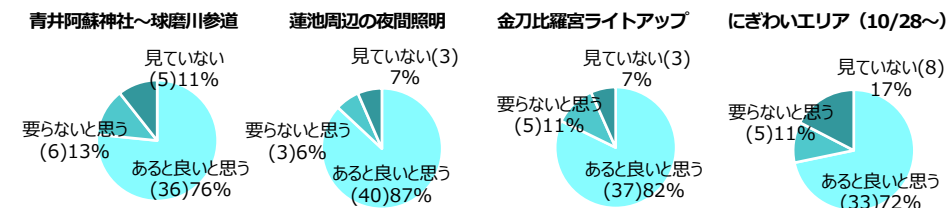


検証の記録

●来場者アンケート調査

- ・青井エリアの夜間景観のライトアップは、いずれの箇所も「あると良い」が7割以上を占め、蓮池周辺は87%が「あると良い」と回答し、最も高かった。

【来場者アンケート】回答数：48件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

●照明の照度や配置など

- ・青井阿蘇神社から球磨川をつなぐ空間づくりににおける照明整備の効果が確認された。
- ・鳥居や金刀比羅宮、袂橋の欄干など、場所に応じた照明を配置することで、点在する見どころをつなぐ効果が確認された。
- ・特に青井阿蘇神社周辺は明るさの確保を求める意見が見られた。
- ・球磨川につながる参道は今後の整備を想定して、歩行者が安心して歩ける照度を確認。

考察

あかりによる夜間景観形成の継続検討

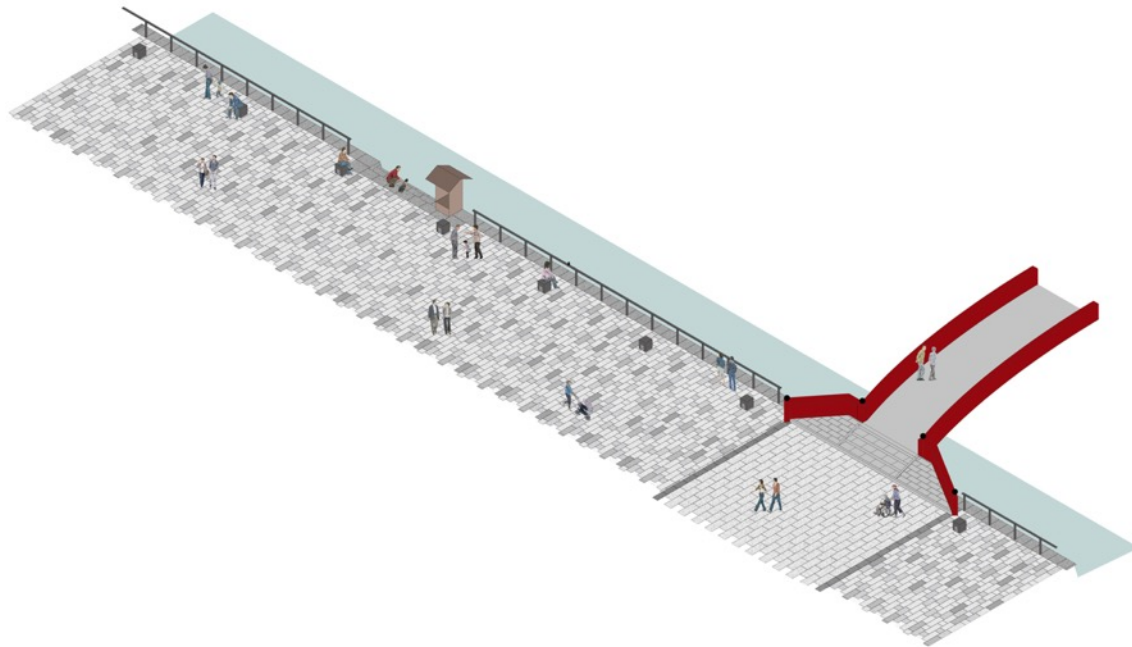
来場者からはあると良いとの回答が多く、今後の青井阿蘇神社周辺の広場等の整備に合わせた夜間景観の検証を踏まえ、周辺事業者や住民との協議を継続する必要がある。

行政としての今後の方向性

- ① 地域や来訪者からの意見を踏まえつつ、青井阿蘇神社とも協議を進め、周辺の広場やまちなみと一体となった夜間景観の創出に向けて継続検討する。
- ② 国による護岸整備とも連携して必要な照明整備に向けた協議を継続する。

04 | 青井阿蘇神社周辺の空間整備に向けたデザイン監修

蓮池周辺（北側）のデザイン検討の進捗



※現時点での設計案のため変更になる場合があります。

背景

青井阿蘇神社周辺は、土地区画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道などの空間再編を行うこととしており、国宝としての神社にふさわしい空間整備が求められている。

整備イメージ

歩行安全性と快適性の視点

- 自然石を使用した舗装、道路幅員全体をフラットにしたバリアフリー化を検討。
- 自然石スツールに等間隔の照明を設置し、夜間の明るさをつくり、歩きやすさの向上を検討。灯籠方の照明も設置し、神社前の雰囲気を演出。
- 電線地中化により、地上機器類は神社境内に配置し、道路上には設置しない。

景観性の視点

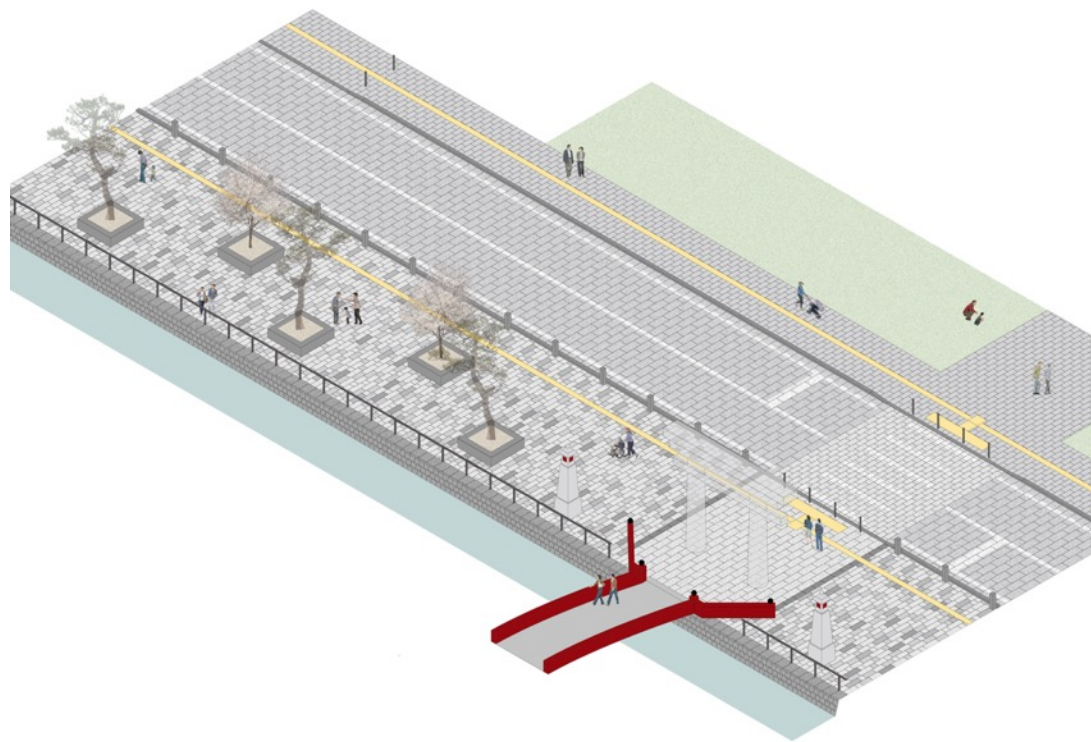
- 車両通行の規制も想定し、歩車分離をせず、基本的に歩行者優先の道路構造とする。
- 自然石スツールは着座できるサイズとし、車止めの機能と兼用する
- 蓮池沿いにはシンプルな横断防止策を設置し、蓮池護岸には笠石設置を検討。

今後の方向性

- 県による国道の整備計画と調整しながら、地元との協議を進め、設計・整備につなげる。

05 | 青井阿蘇神社周辺の空間整備に向けたデザイン監修

蓮池周辺（南側）・国道445号のデザイン検討の進捗



※現時点での設計案のため変更になる場合があります。

背景

青井阿蘇神社周辺は、土地区画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道などの空間再編を行うこととしており、国宝としての神社にふさわしい空間整備が求められている。

整備イメージ

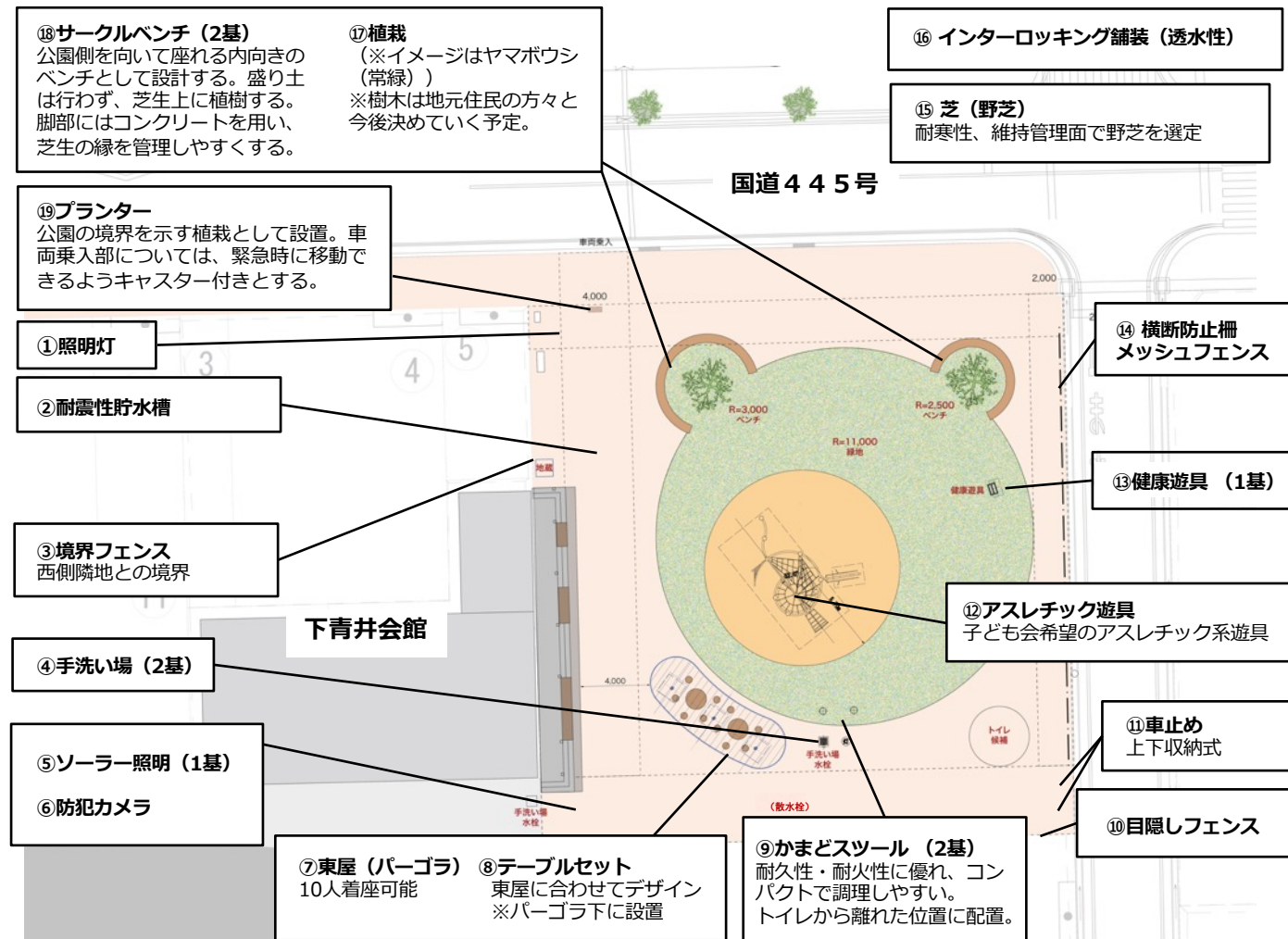
- ・ 蓮池には、横断や転落防止の柵を設置を検討。
- ・ 歩道は景観に優れた風合いある自然石等を使用した舗装を検討。
- ・ 車道は、硬さとしなやかさを合わせ持つ半たわみ性舗装を検討。
- ・ 植栽は、ツリーサークルを採用したマツとサクラの千鳥配置を検討。
- ・ 蓮池際の手すり、植栽に照明を設置。
ポール照明の設定も合わせて検討する。
- ・ 道路構造として、車道際には縁石、蓮池エリアを示す石柱の設置も検討。
- ・ 横断歩道や乗入れ部には歩行者の安全性確保や不法駐車防止のための車両止めを設置。
- ・ 神社－蓮池と国道－公園での変化をつけた歩道整備を検討。
- ・ 目の不自由な方や弱視の方が安全に歩行できるよう視覚障害者誘導用ブロックなどの配置を検討。
- ・ 場の利活用を見込み、植栽周りにはベンチの配置を検討する。

今後の方向性

- 県による国道の整備計画と調整しながら、地元との協議を進め、設計・整備につなげる。

06 | (仮称) 西部公園の整備に向けたデザイン監修

(仮称) 西部公園のデザイン検討の進捗



※現時点での設計案のため変更になる場合があります。

背景

青井地区の土地区画整理事業において、新たに公園を整備することから、移設・隣接する下青井会館との関連性を含めた公園の設計・整備が求められている。

公園の考え方

- ・ 地元の子供が安全で身近に遊べて、子育て世代が利用しやすい公園
- ・ 健康づくりや憩いの場として、子どもから高齢者まで気軽に集える公園
- ・ 公民館と一体的に活用し、地域行事や災害時の避難・支援活動にも対応できる公園

デザインの考え方

- ・ 下青井会館とつながる公園として、地元の方々が親しみを持ち、日常的に利用してもらう公園として、地元住民と対話を重ねながらデザインを検討
- ・ 遊びの空間と憩いの空間をつなぎ、多様な過ごし方に対応
- ・ 緑地や複合遊具、健康遊具、ベンチ、植栽を配置し、安全性と見守りやすさに配慮災害時の一時避難や支援活動にも対応できる設備を備える

今後の方向性

- 市民の居場所や地域行事の場としての二一ズを踏まえ、公民館との一体的な活用や防災機能を備えた公園の整備を進める。



まちなかサードプレイス

まちなかサードプレイス・ひとはこ図書館

背景

まちづくりを進めるなか、まちなかにおける、誰もが気軽に立ち寄り、憩い、学び、交流できる居場所の必要性が見えてきた。

目的

まちなかに本棚や学習・滞在スペースを設け、市民や来訪者の利用ニーズ、必要な機能、運営体制の可能性を検証する。

担い手

人吉に新図書館をつくる会

社会実験内容

肥後銀行人吉支店1階において、図書機能をもつサードプレイス（自宅・職場以外の第三の居場所）を整備・運営する。

実施期間：令和7年8月2日（土）～10月31日（金）9:00～18:00

施設内容：ひとはこ図書の設置、滞留・仕事・学習スペースの整備、展示・イベントスペースの整備、熊本県立大学「共創流域治水PJ」展示スペース

検証項目

- ✓ 利用ニーズ、必要設備、運営負荷、体制等
- ✓ ひとはこ図書オーナー制度による市民参加型運営の可能性



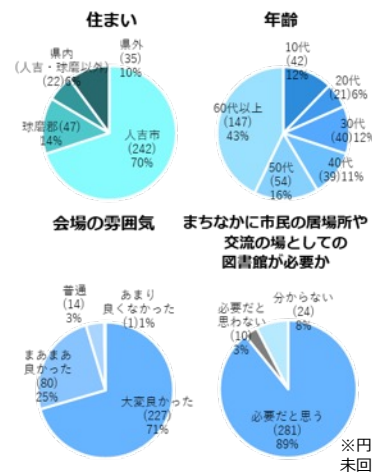
▲施設内の様子

検証の記録

●来場者アンケート調査

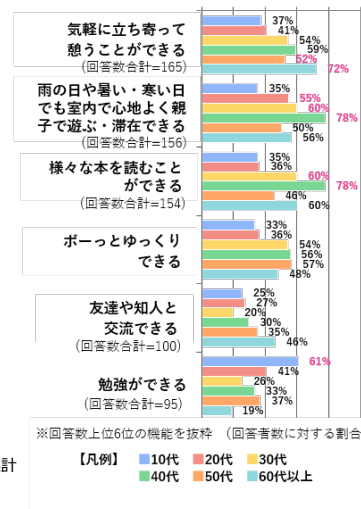
- ・まちなかに市民の居場所や交流の場としての図書館が必要との意見が約9割となった。
- ・年代ごとに求める機能の違いが見られた一方、会場の雰囲気は好意的に受け止められ、気軽に立ち寄れる居場所へのニーズが確認された。

【来場者アンケート】回答数：359件



※円グラフのカッコ内は回答数。
未回答を除く有効回答を対象に集計

まちなかに求めるサードプレイスの機能



※回答数上位6位の機能を抜粋（回答数に対する割合）

【凡例】 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

●施設・運営体制に関する検証

- ・市民有志のボランティアにより運営。ひとはこ図書オーナーは68人と地域の関心が生まれた。
- ・中心市街地での立地や適度な規模と限られた期間であったことから、ボランティアを中心とした運営でも大きな支障は見られなかった。

考察

市民ニーズとボランティア運営の限界

市民ニーズは高く、必要性は感じられるものの、ボランティアのみでの継続的な運営は困難。

行政としての今後の方向性

- 市民の居場所としてのニーズや場づくりの可能性が確認されたことを踏まえ、行政としても主体的に、地域と連携した常設化に向けた取組を進める。あわせて、熊本県立大学や国土交通省との連携による展開も図る。



鍛冶屋町通り

鍛冶屋町通り あやかし 妖漫画館

民間自主

検証レポート

担い手

立山 茂さん
(鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会)

目的

妖怪祭りをきっかけとした通年コンテンツの創出と、地域による継続運営のあり方を検証する。

実施内容

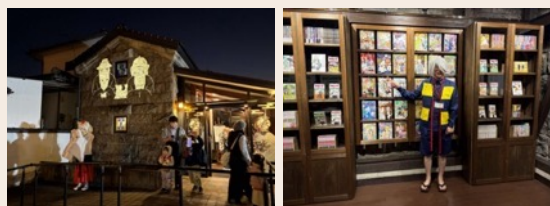
鍛冶屋町通りの美術館「Chobit（ちょびっと）」の建物を活用し、妖怪や妖にまつわる漫画などを展示する「妖漫画館」を設置。

開館日：令和7年11月15日（土）

開館時間：11:00～16:00

鍛冶屋町通りの6者で施設の開閉などの管理を実施。1週間ずつ担当を交代して運営。

熊本大学と連携し、手作り感と学術性を大事に企画・実施。



▲妖漫画館の夜間外観や内部の様子

担い手の声

- ・大学生と地域の協力により企画実現し、新しい取組ができた。
- ・今後の運営体制・方法は継続的に改善に取り組む必要がある。

背景

鍛冶屋町通りでは、妖怪祭りが開催され、地域の個性を活かした取組が続けられてきた。一方で、祭り当日だけでなく、日常的に通りを訪れるきっかけづくりが課題となっていた。

検証項目

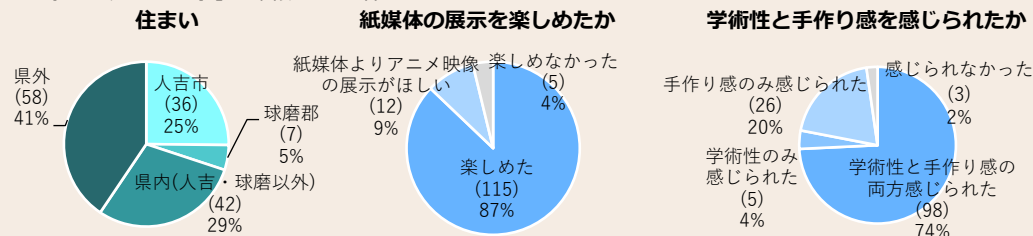
- ✓ 展示内容に対する反応の検証、地域における運営手法の検証

検証の記録

● 来場者アンケート調査

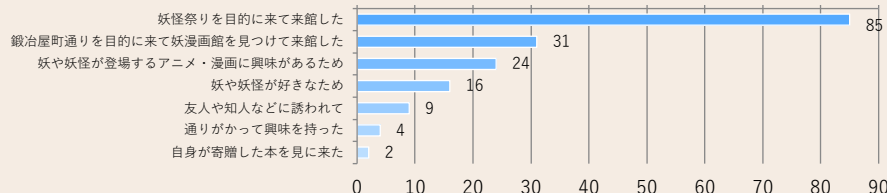
- ・人吉球磨のみならず、県内外から来訪があった。
- ・漫画を「読む」のではなく、「見る」施設として展示構成していることについて、来場者からも一定の理解があった。

【来場者アンケート】回答数：143件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

来場理由（複数回答）



担い手のこれから

- 1 継続して妖漫画館を地域で運営する。
- 2 運営を進める中で生じる課題を踏まえて、運営体制・方法は精査していく。

考察

テーマに特化したコンテンツの価値

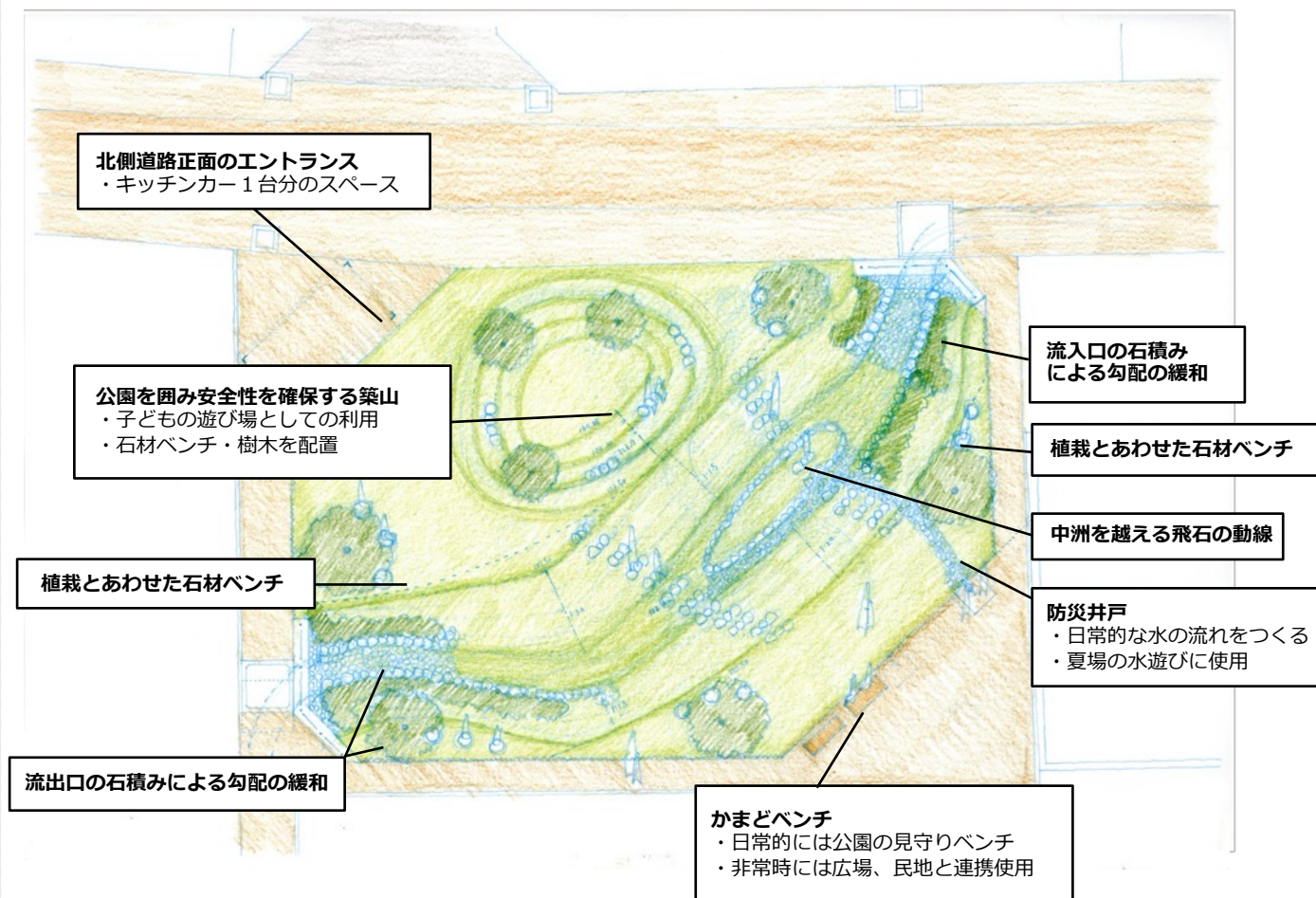
エリアに紐づく特定のテーマによるコンテンツを作ることで、低未利用であった公共施設に人が訪れるようになったことから、そのような企画・地域との連携が重要である。



区画整理（紺屋町）・山田川

（仮称）紺屋町公園の整備に向けたデザイン監修

（仮称）紺屋町公園のデザイン検討の進捗



※現時点での設計案のため変更になる場合があります。

背景

紺屋町・山田川周辺は、土地区画整理事業により空間再編を行い、新たに公園を整備する計画であり、地域の集いの場となる公園の設計・整備が求められている。

公園の考え方

- ・雨水浸透を促し、流水を抑制する流域治水の一環としての公園
- ・市街地から山田川までつながるグリーンモールとしての公園
- ・公民連携で公園周辺や土地区画整理全体の価値を高める公園

デザインのポイント

- ・子どもの豊かな遊び場を作りながら、公園の安全性を同時に高める築山と植栽
- ・グリーンモールの一部となる多様な植栽
- ・夏場の水遊びにも使用できる防災井戸

今後の方向性

- まちなかの雨水浸透機能を有する公園として隣接する事業者等とも活用に向けた協議を行い、設計・整備を進める。



エリア共通

01 | 人吉球磨の風景・中村紫苑写真展

担い手 石垣 亮平さん、緒方 健さん

目的

人吉球磨を舞台としたアニメの作者や声優等への感謝を発信することで、アニメファンの来訪時の回遊性を高める。

実施内容

人吉球磨地域で多く撮影を行う写真家・中村紫苑さんの写真展を地域の拠点となる人吉駅で実施。5名のメンバーで企画・運営。

実施期間：令和7年8月1日（金）～8月31日（土） 9:00～17:00



▲写真展の様子。来訪者からのメッセージを残せるボードを設置。

背景

令和2年7月豪雨災害後の復興まちづくりを考える担い手による、来街の機会づくり、来訪時の楽しみをつくる発案。

検証項目

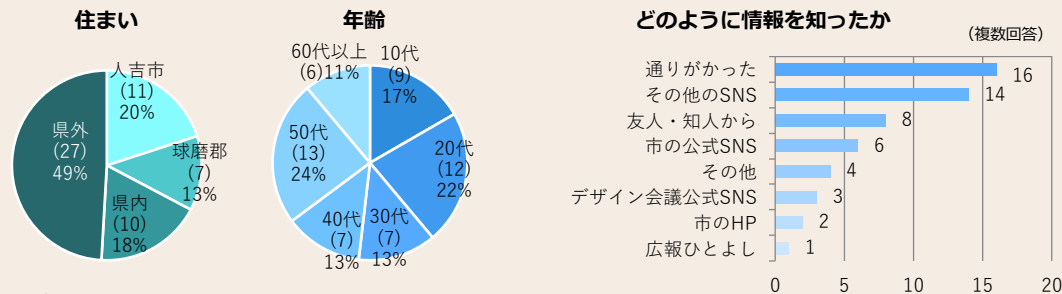
✓ 現在のまちの姿を知ってもらう機会創出の効果

検証の記録

● 来場者アンケート調査

- ・人吉球磨のみならず、県内外から来訪があり、特に県外からの来訪が半分を占めた。
- ・通りがかりの他、SNSで写真展を知り来訪したという方も一定数見られた。

【来場者アンケート】回答数：55件



※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

担い手の声

- ・アニメ作者や声優等の関係者に感謝を伝える企画を検討しているなか、花火大会でのクラウドファンディングを実施することとなり、連動企画として実施。SNS以外での情報発信は課題となった。
- ・8月にアニメファンが多く来訪することから時期を合わせて実施。来場者向けのメッセージボードは300件ほどが集まった。
- ・駅舎での物販ができなかったことから、クラウドファンディングで運営費を賄った。

担い手のこれから

● 今後も漫画・アニメファンなどに向けた取組は検討するものの、具体的な企画は未定。

考察

まちなかへの立ち寄りや回遊連携

県外からの来場が約半数を占め、SNSをきっかけに訪れた人も見られたことから、各種コンテンツのファン層が人吉を訪れる機会を活かし、まちなかへの立ち寄りや現在の人吉を知ってもらう取組との連携を進めることが重要である。

02 | まちなかフットパス

目的

まちの見どころや社会実験を通じて市内に形成された複数の散策拠点を、歩いて感じ・楽しむ体験を実践する。

実施内容

人吉城跡から胸川への散策路や城見庭園などの社会実験にて設けられたスポットを巡るツアーを実施。ゴールは大橋とし、開催されている歩行者天国「おおはしひろば」を楽しんでいただいた。

実施期間：令和7年10月26日（日） 10:00～12:00

参加費：一人1,500円（保険代、おやつ、お弁当代含む）



▲胸川散策路や城見庭園デッキなどをめぐるフットパスの様子。

背景

復興まちづくりを進めるなかで形成されたスポットを歩いてつなぎ、体感できる回遊プログラムの発案があった。

検証項目

✓ 現在のまちの姿を知ってもらう機会創出の効果

担い手

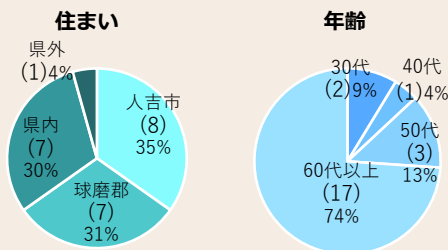
坂本 克彦さん、白石 忠志さん（フットパス相良路）

検証の記録

● 来場者アンケート調査

・市内外から29名がツアーに参加。60代以上が74%であった。

【来場者アンケート】回答数：23件



参加者の感想

<良い印象>

- ・日頃気に留めず、通り過ぎていた場所も歩いてみると魅力的に感じた。また参加したい。
- ・胸川沿いから見上げる大手門からの石垣。

<良くない印象>

- ・説明の音が時々聞こえなかった。
- ・次から次へと急かされた感じがした。

※円グラフのカッコ内は回答数。未回答を除く有効回答を対象に集計

担い手の声

- ・これまでもまちなかフットパスを実施してきたが、社会実験で人吉城跡・胸川の散策路や城見庭園デッキが仮設されたことを踏まえて、新しい場所を加えたツアーを企画できた。
- ・石垣を下から見上げることができて良かったとの声が聞けた。
- ・フットパスを通じて、まちの復興状況を知ってもらえることもよかった。

担い手のこれから

● 今後も人吉球磨地域でフットパスを継続して実施予定。

担い手の実践から見た考察

まちなかを回遊するプログラムの価値

まちなかで動いている事業や拠点などを巡るプログラムによって、復興やまちの状況を知ってもらうきっかけとなることから、継続した連携が重要である。



交通・モビリティ・駐車場

01 | モビリティ

背景

令和2年7月豪雨災害によって、肥薩線などの鉄道運行再開まで時間を要する中、じゅぐりっと号の利用低迷、人吉ICからまちなかの移動手段の不足、来街者駐車場の不足などの交通課題が見られ、復興まちづくりの基盤となる交通環境の改善が求められている。

目的

既存の公共交通や駐車場、シェアサイクルなどを組み合わせた交通拠点（モビリティハブ）の形成を目指し、移動手段の充実を図る。

社会実験内容

宿泊施設への設置を中心に展開しているシェアサイクルのポートを増設し、二次交通としての役割を担えるかを検証する。

実施期間：令和7年10月10日（金）～令和8年3月31日（火）

検証項目

- ✓ シェアサイクルポートを4か所（10台）増設することによる利用状況
- ✓ 増設によるシェアサイクルの利用状況やルートの変化など



▲増設したシェアサイクルポートの一部

検証の記録

●シェアサイクル増設と利用状況

- ・人吉IC、人吉城歴史館、人吉市役所、くまりばの4か所にポートを増設。
- ・増設した結果、利用数が大幅に増加しており、特に人吉ICからまちなか間の片道移動が増加した。
- ・シェアサイクルに搭載しているGPS位置情報で移動経路を確認した結果、まちなかの回遊だけでなく、広域的に市内を移動していることが確認できた。

	利用回数	前年同月比
10月	140回	197%
11月	99回	141%
12月	63回	300%

- ・自転車台数：30台（10台増車）
- ・サイクルポート数：9箇所（4箇所増設）
- ・利用料金：200円/15分、4,000円/12時間
- ・システム：ハローサイクリング（OpenStreet株式会社）
- ・運営会社：つばめ交通㈱



考察

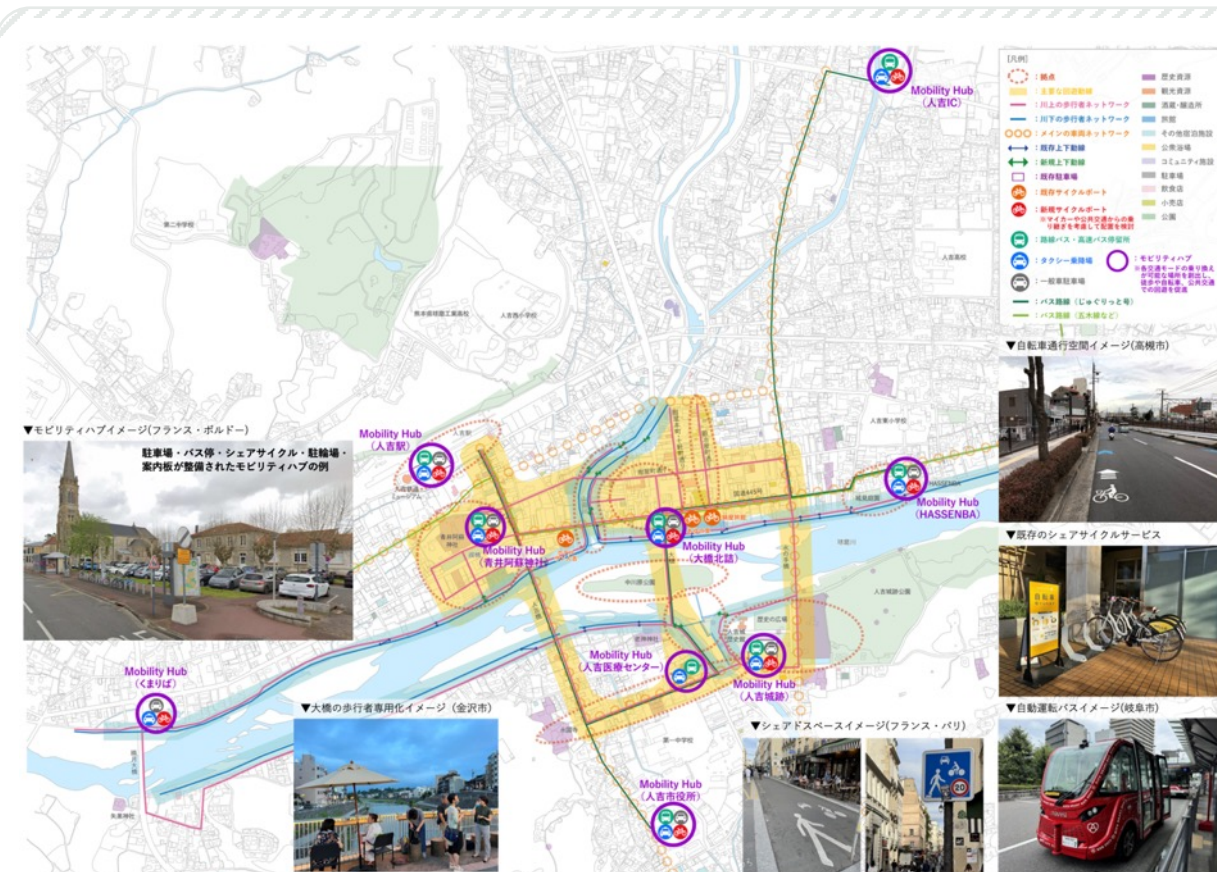
地域公共交通計画の改定との連動

シェアサイクルポートの増設により利用数は増加したことを踏まえて、令和9年度に予定されている「人吉市地域公共交通計画」の改訂と合わせた二次交通の在り方の検討が必要。

行政としての今後の方向性

- 社会実験を踏まえたシェアサイクル事業の運営に係る事業収支を試算し、「人吉市地域公共交通計画」の改定と合わせて官民連携の方向性を具体化する。

01 | モビリティ（中心市街地における交通拠点全体像）



交通・駐車場・モビリティの考え方

公共交通を強化・補完し、まちなか各所の
アクティビティとモビリティの統合的サービスを図る
市民生活の利便性と来訪者の回遊性を高める「MaaS」の展開

- ①各交通モード間の乗り換えをスムーズに行うことができる「モビリティ・ハブ」を要所に整備し、自分のペースでゆっくりとまちなかを回遊・体感できる交通インフラを形成。
- ②自動運転やAI等の新技術を取り入れ、時代に応じた交通システムへとアップデート。
- ③来訪者用の駐車場は、将来の需要を想定し、新規確保を検討。
- ④シェアサイクルについては、既存のリソースの有効活用を前提としながら、公民連携による持続可能な運営方式を検討。
- ⑤まちなかの回遊動線を充実するため、道路植栽の美化化や歩行空間・自転車走行空間の整備、シェアスペース等の活用による車の速度低減等を図る。

※MaaS：Mobility as a Serviceの略。

地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

背景

公共交通

- ・JR、くま川鉄道ともに運休（バスによる代替輸送）
- ・まちなかから離れた人吉ICでの高速バス接続
- ・じゅぐりつと号により人吉駅～人吉IC間を接続しているが、高速バスをカバーしきれていない
- ・クルマ移動が中心で公共交通の利用者が減少
- ・バス、タクシーともに運転手が不足

駐車場

- ・来街者用の駐車場がほとんどない（現状の駐車状況の確認が必要）
- ・駐車場がどこにあるかわかりにくい

シェアサイクル

- ・6箇所の宿泊施設にポートを配置
- ・民間事業としては採算性が厳しく規模縮小（50台10箇所 → 20台6箇所、30台在庫あり）

道路・交通規制

- ・全体的にクルマ中心の道路構造
- ・自転車通行空間が整備されていない
- ・歩行者・自転車での回遊動線がわかりにくい

02 | 駐車場

背景

令和2年7月豪雨災害によって、肥薩線などの鉄道運行再開まで時間を要するなか、じゅぐりっと号の利用低迷、人吉ICからまちなかの移動手段の不足、来街者駐車場の不足などの交通課題が見られ、復興まちづくりの基盤となる交通環境の改善が求められている。

目的

既存の公共交通や駐車場、シェアサイクルなどを組み合わせた交通拠点（モビリティハブ）の形成を目指し、移動手段の充実を図る。

調査内容

市街地における公共・民間の一時利用のための駐車場を調査し、復興まちづくりによる街並みの再編やイベントの実施に合わせた必要数等を調査する。

実施期間：令和7年10月～11月

※社会実験の集中実施期間に調査を実施

調査項目

- ✓ 市街地駐車場における収容台数
- ✓ イベント実施時における臨時駐車場の利用状況など

考察

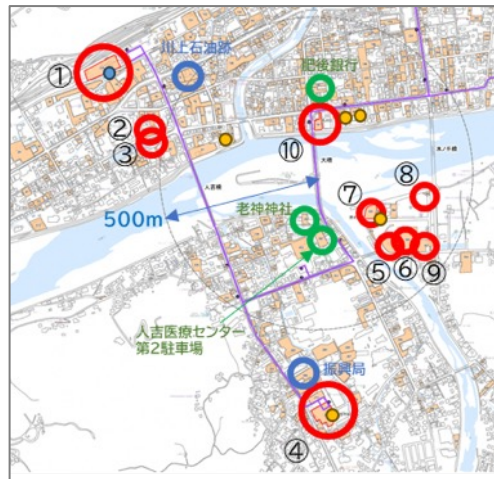
土地区画整理事業等の再整備と合わせた検討

大規模駐車場新設の必要性は低いものの、駅前の再整備等による既存駐車場の収容台数減少に応じて、同上台数の代替駐車場を確保する必要がある。

調査の記録

● 市内市街地の駐車場の実態調査

- ・市内の市街地における公共・民間運営の駐車場の収容台数を調査し、中川原公園を中心に半径500m圏内の公共駐車場は合計で200台程度の収容量であると確認した。
- ・500m圏外では人吉駅前や青井阿蘇神社、人吉市役所などの合計でさらに200台程度の収容量を確認した。
- ・令和7年10月12日（日）の中川原公園で実施した球磨川マルシェや10月26日（日）のおおはしひろばの開催に合わせて駐車台数の調査を実施。人吉城跡などの駐車場において、大きな混乱はなく、大幅に不足する事態は見られなかった。



- ・11月16日（日）の「SL人吉・鉄道フェス」でも駐車場調査を実施。当初の臨時駐車場が満車となったため、新たに臨時駐車場を用意し対応したが、大きな混乱はなく、駐車場が大幅に不足する事態は見られなかった。

【市街地駐車場の収容台数】

①人吉駅前駐車場	60台（無料）
②青井阿蘇神社	37台（無料）
③青井阿蘇神社（蓮池横）	12台（無料）
④人吉市役所	約100台（無料）
⑤人吉城跡（観光駐車場）	40台（無料）
⑥人吉城跡（市駐車場）	約100台（無料）
⑦人吉城跡（歴史館横）	約35台（無料）
⑧人吉城跡（水の手橋詰め）	5台（無料）
⑨人吉城跡（元湯側）	12台（無料）
⑩札の辻駐車場	20台（有料）

行政としての今後の方向性

- 人吉駅前や中心市街地、人吉城跡の再整備の方向性を踏まえて、同規模の台数を収容する代替駐車場の確保に向けたロードマップを作成し、協議・調整を進める。

本資料では、令和7年度に実施した
人吉市まちづくりデザイン会議による取組をまとめました。
取組によって集められた情報、得られた分析が、
今後のまちづくりにつながっていくよう進んでまいります。

まちづくり情報発信中

人吉市まちづくりデザイン会議による取組は、各種SNSで発信しています。

litlinkで全体を見る



Instagramを見る



Xで最新情報へ



YouTubeを観る



noteで記事を読む



発行日 令和8年9月1日
発行 人吉市まちづくりデザイン会議

お問合せ先

人吉市 復興政策部 復興支援課
熊本県人吉市西間下町7番地1・市役所3階
TEL 0966-22-2111（代表）